

教育民生常任委員会

(令和3年6月22日)

○ 森川 慎委員長

おはようございます。

昨日に引き続き教育民生常任委員会を開かせていただきます。

本日もインターネット中継をしておりますので、発言の際はマイクに近づいてご発言いただきますこと、ご協力をお願いいたします。

それでは、昨日残しましたこども未来部の所管であります公立幼稚園の第2次適正化計画について、所管事務調査から始めていきたいと思います。

部長、何かご挨拶しますか。いいですか。

そしたら、進めさせていただきます。

今日の進め方なんですけれども、まず、5月31日に議長宛てに公立幼稚園の保護者の方から申入れがありましたので、このことの確認と、取扱いについて、まずご議論いただく。その後、令和3年度、来年度の公立幼稚園の園児募集及び広報よっかいちへの掲載やその周知の方法について——ここが本題になってきますけれども——ご議論をいただきたいと思っています。その後、この教育民生常任委員会として第2次適正化計画の議論を今後どう進めていこうかということをご協議いただきたいと思っていますので、そういう形で進めさせていただきますので、お願いをいたします。

まずは、要望書もそうなんですけど、先般、日置委員から改めて、全員協議会のときに資料請求したのが来ていないというお話をいただいていたもので、本日の教育民生常任委員会のフォルダーの中に改めて入れさせていただいています。

一回理事者のほうから、どういう資料請求で、こういう形の資料を出してもらったかということだけ、簡単に説明しておいてもらえますか。皆さんで共有するためにも。

○ 大西保育幼稚園課長

保育幼稚園課の大西でございます。よろしくお願いいたします。

委員長からご発言いただきましたように、資料の説明をさせていただきます。

タブレット画面の左側のホームをお開きください。画面左上、今日の会議のうち、教育民生常任委員会をお開きください。その中の203、全員協議会追加資料（6月17日配付）をご覧ください。よろしいでしょうか。

それでは、資料 2 ページをお願いいたします。

こちらの資料につきましては、先ほど委員長からご紹介もありましたように、去る 5 月 21 日の全員協議会におきましてご請求をいただいたものを整理させていただいております。

簡単でございますが、ざっと説明をさせていただきます。

まず、1 のこども園設置の目的についてでございますが、こちらは日置委員からご請求をいただいております。

その目的ではございますが、認定こども園は幼稚園と保育園の両方の機能を併せ持ち、従来の幼稚園、保育園という枠組みを超え、乳幼児期の教育と保育を一体的に行う施設であります。

幼児期は、集団での遊びを通して幼児同士が刺激し合い、教育を進めることが子供の発達にとって重要であり、そのため、本市におきましては、園児数が減少し、年齢ごとの一定規模の集団生活を確保することが困難な公立幼稚園につきまして、認定こども園において教育認定児の教育環境を確保することを目的といたしております。

次に、資料 2 の 15 人の基準の目的につきましては、こちらの日置委員からご請求をいただいたものでございますが、今回の公立幼稚園の第 2 次適正化計画の 5 ページの 2、3、4 を抜粋した別紙、こちらは資料の 3 ページでございますが、再掲させていただいております。

引き続きまして、3 の対象地区で説明していく内容につきまして、こちらにつきましては、伊藤昌志議員からご請求をいただきました。

対象地区で説明していく内容につきましては、その説明内容につきましては既にお示ししております。第 2 次適正化計画の内容と考えております。

次に、4 でございます。園長会、並びに保護者からの声につきまして、こちらと同じく伊藤昌志議員からご請求をいただいております。

園長会の意見につきましては、去る 5 月 11 日の園長会のやり取りを、同資料 4 ページに添付しております。資料 4 ページでございますが、園長先生からは、保護者からの話を聞き、我が子の行き先を心配し、不安に思っているとの話もお聞きした次第でございます。

すみません、資料 2 ページに戻っていただきまして、また、保護者からの意見につきましては、さきの 6 月の園長会でお聞きしたその意見を 4 点で整理させていただいております。

1 点目は、第 2 次適正化計画はどういった内容か、先ほど園長会からの意見もありまし

たが、我が子の行き先がどうなるのかといった保護者の方々の不安の声がある。

2点目は、公立幼稚園の廃園が決まってからではなく、第1次適正化計画のように、何年度、どこをこども園にしていくか示してほしい。

3点目でございますが、公立幼稚園は、経済的、身体的、国籍などで私立を選べない家庭を受け入れているという公的役割があるが、そのような家庭はどうすればいいのか。

最後でございます、4点目でございます。幼稚園児が減ったら保育園をこども園にするというのでは、結局、保育園に入れているのと同じになる。こども園にするなら、こども園の中身、保育内容をちゃんと検討してほしいといった園長会からの声を聞いております。

また、保護者の方々のその他の声につきまして、本日冒頭でお配りさせていただいた資料でございますが、後に資料の提出が園長会からありましたので、各園に寄せられた声としての集約分を提出させていただいております。

別紙でございますが、各園に寄せられた声の集約分でございますが、先ほど園長会でご報告があった、私が説明させていただいたのは、例えば1ページの中ほど、二重丸の下の部分のゴシック文字になった部分でございます。

資料をめくっていただきまして、3枚目でございますが、三重県教職員組合三河支部の幼稚園部一同から、要望書がさきの金曜日に届けられております。要望内容といたしましては4点ほどいただいておりますが、その資料もつけさせていただきます。

私からの説明は以上でございます。

○ 森川 慎委員長

ご説明、ありがとうございました。

この資料についての質疑とか議論はまた後段で、本題のときにしていただければと思いますので、事項をまず進めさせていただきたいと思います。

次に、5月31日に公立幼稚園の保護者の方から議長宛てに申し入れられた文書がありますので、一回事務局で読み上げてもらっていいですか。

○ 渡邊議会事務局主事

事務局、渡邊でございます。

まず、要望書の資料の場所をお伝えさせていただきますけれども、同じフォルダーの204、要望書（公立幼稚園の第二次適正化計画について）というものを開きただけま

すでしょうか。

それでは、読み上げさせていただきます。

(事務局朗読)

○ 森川 慎委員長

ありがとうございました。

こういう申入れが議長宛てに先般申し入れられています。要望書として出されております。

この提出に当たっては、日置委員と一緒に同行していただいたというようなことを伺っております。何か補足がありましたら。大丈夫ですか。

○ 日置記平委員

大丈夫です。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

それでは、大まかに、この第2次適正化計画をちゃんと保護者の方にも伝わるようにしてほしいであるとか、情報の公開を徹底してくれというようなことかなと思っておりますので、今後のこの教育民生常任委員会の議論の進め方の過程においても大切なことだと思っておりますので、この取扱いについて、まず、委員会としての方向性、合意をつくっておきたいと思いますので、ご意見ありましたら挙手にて発言をいただければと思います。いかがでしょう。

○ 豊田政典委員

森川委員長のおっしゃられること、もっともだと思いますが、その前に、この要望書は樋口議長宛てに出されたわけですね。議長はどう考えておられるんですか。

○ 森川 慎委員長

議長は、ちょっと考えまでは分かりませんが……。

○ 豊田政典委員

議長宛てに出された文書を基に、我々、今から議論するんですけれども、それは教育民生常任委員会で受け取って、何らかの合意が得たら、その後どうなっていくの。

○ 森川 慎委員長

その後は、議長にこういう合意が出されましたということで申入れをさせていただいて、当然ながら、委員会の議論の後には全員を対象とした議論に進んで行くと思って、そういう予定だと伺っておりますので、その件は申入れをしていきます。ただし、当然、議長、議会宛てというふうに出されたのではありますけれども、ここで言われているのは、やはりこの委員会の議論を主体として公開を求めているのかなと私は判断をしましたので、委員会内での共有と、ある程度の方向性の合意というか、意見の一致だけは見ておきたいなというのが私の思いです。

○ 豊田政典委員

つまり、今から議論して意見集約することは意味があると。

○ 森川 慎委員長

私はそう思っています。ほかの委員さんはどう判断されるか分かりません。ご意見はどうか分かりませんが、やはり公立の幼稚園の子供たちや保護者の方というのはあまり……。

○ 豊田政典委員

議会内の話を聞いている。勝手に教育民生常任委員会が文書を受け取って、勝手に合意したところで、議長宛ての文書なので、知らねえよと言われたら終わりじゃないですか。その辺、すり合わせはできているんですか。

○ 中川雅晶委員

これ、全員協議会で合意されたことは、教育民生常任委員会ですっかりと議論し、それをまた全員協議会で協議をするということであり、ここでする議論はそれの元になるとい

うことなので、意味があるものだというふうに思います。

○ 森川 慎委員長

私もそういう位置づけかなと思っています。ここで何か結論が出て、それが100%、全議員の合意の上で実現されるかどうかというところまでの保証は私もできかねますけれども、やはり委員会にこの議論自体が預けられていますので、それに付随することかなと私は認識をしています。

○ 豊田政典委員

今の件は、じゃ、了解しました。

私の意見ですけど、公立幼稚園の第2次適正化計画及び今後については、当然ながら多くの市民に影響を与えるし、関心の高い事柄です。あわせて、何より議会基本条例の3本柱のイの一番、市民との情報共有という意味からも、あらゆる関係書類を私は公開すべきだと思っているし、例えば今日出された内部文書、こういったやつも全部公開して、市民と共に考えられるような体制を、今までできていないので、つくっていかなければいけない。そのためにどうするか。

例えば私案ですけど、議会のホームページに公立幼稚園関連のフォルダーを作って、誰でも見れるように、この案件に関わる資料を整理して、というようなことをしないと、議会の信頼が損なわれますよ、こんなの。さっきの文書にあったように。だから、全面公開、全関連文書公開というのを私は提案します、ホームページで。

○ 森川 慎委員長

そういうご意見です。

1点確認、理事者に確認なんですが、今日出された資料も含めて、議会に示されたということは市民に示されたという認識で私は思っているんですけど、その辺だけちょっと確認だけさせてもらっていいですか。

○ 伊藤こども未来部長

今、委員長からお話があったように、議会に示すということは市民に示したというふうに理解しております。

○ 森川 慎委員長

そういう取扱いですもんで、当然、委員会に提出された資料についての公開は、別に何も制限はまずないという確認はさせてもらって、それをどうやって公開していこうかという話かなと思うんですが。

他の委員の皆さん、どうですか、ご意見。

○ 中川雅晶委員

情報公開は、やっぱりこれは必須だというふうに考えます。ただ、全部がどうかというのは精査しなきゃいけないし、個人情報絡んだりとか、その辺のセンシティブな部分は公開できない場合もあるので、全文書というのはちょっと言い過ぎかなと思うんですけど、公開できる文書は公開していくというのは当然の話だと思いますので。当然、この市民の要望書というか、お母さん方から要望が上がっているのは、アクセスできないと、知りたいと思っても情報が知らされないというのは問題かなと思いますので、当然、行政側は行政側として、この適正化計画についてだったりとか、四日市の現状について、また、四日市が考えている方針とかというのは、行政として発信していただかなきゃいけないし、議会は議会として、今、豊田委員がおっしゃったように、二元代表制なので、議会として公の文書であったりとか、議会として合意された部分については、議会のホームページを通じて報告していくと。それが議論の途中、こういう段階であるということも含めて公開をしていかなければならないかなというふうには思います。それをやっぱり議会の中でどういうふうにしていくかというのも、やっぱり議論していかなければならないんじゃないかなというふうには思いますので、そういう方向で進めていただければいいんじゃないでしょうか。

○ 森川 慎委員長

ちょっと事務局に確認ですけど、議会内のホームページに、例えば教育民生常任委員会のページ、今、豊田委員が提案されたような形で設けることは、全議員の合意が得られたら、技術的には可能な話ですか。

○ 渡邊議会事務局主事

事務局の渡邊です。

そうですね、そういったご意見があったということを教育民生常任委員会の意見としてもお伝えいただいてから検討するということになりますので。

○ 森川 慎委員長

技術的な問題、仕組みとしては問題ないですね。ページを作るということとはできるということですね。

○ 渡邊議会事務局主事

ホームページに載せるということ自体、それ自体はできると思います。ただ、載せるかどうかというところも含めて、今後の議論になるかと思います。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

そういうことで、できるというお話であります。

ほかの委員さん、どうでしょうか。

○ 村山繁生委員

私も、情報公開は重要なことだと思います。それはそれとして、一つ確認したいんですけども、第2次適正化計画、議員説明会なんかでは私らは説明を受けておるけれども、例えば園長会を、園長先生を集めて園長会の中で説明したとか、そんなことはなかったわけですか、実際、本当に。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

園長会のほうには、例えば11月あるいは1月、議員説明会の前には資料の計画のほうは説明しております。

以上でございます。

○ 村山繁生委員

そしたら、何でこういう、何も聞いていないとか、さっぱり分からないとか、どうしてこういうことが出てくるんですか。

○ 森川 慎委員長

私が思うに、保護者の方とか、現場の先生方ぐらいのレベルまでは十分に浸透していないのではないかなと推察をするんですが。園長先生たちの中ではある程度の説明はされているかもしれないですけど、そこから下へ降りていくようなところまで行けていないのかなというふうに……。

○ 村山繁生委員

園長先生で止まっているということ。

○ 森川 慎委員長

ちょっと定かではないですけど、そういうことはあり得るのかなと思っているんですが。

○ 村山繁生委員

示されておって、私は当然、いきなり何にも説明もなしにそんなことを、行政のほうもできるわけがないし、説明されておるのに、何でこんな、全然さっぱり分からないから不安だという、こういうことが起こっていること自体が私はおかしいなと思う。

○ 森川 慎委員長

ちょっと行政に確認をしますけど、こういう要望書が出ていまして、あんまり保護者の人たちにも、私たちどうなっているか分からんという声が出ています。これを受けて、認識としてどうですか。今、この辺の情報の伝わり方であるとか、保護者の方たちへの伝達であるとかというのは。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

この適正化計画につきましては、園長会のほうで説明をさせてもらっております。その中で園長先生のほうから職員のほうには伝わっていると思っております。ただ、委員長か

からお話がありましたが、保護者への説明につきましては、すみません、これも保育幼稚園課としても市議会のほうで議論が続いているというお話を園長会でもしている上ですから、保護者への説明について、園長先生の方々も少しオブラートに包んだようなところの、ちょうど現場での取扱いになっているのかなと思っております。

以上です。

○ 森川 慎委員長

保護者には言うなと言っているんですか、要請として。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

先ほど申し上げましたように、当計画については市議会で議論中であるという前提で園長会のほうには説明しております。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

ですから、議会としてきっちりと、どうやって取り扱っていかうという結論が出ていない中でこういうことになっておって、園長先生方には説明は多少されておるということで、そこから漏れ伝わって保護者の耳に入ったりとか、請願の件もありましたので、そういうところでの情報は行っているけどというところなのかなと、今の答弁では私は感じたところですけど。

村山委員、どうでしょう。

○ 村山繁生委員

だから、もうそれ、ある程度は説明されていると、議会で議論されておるけれども、一応、総合計画でも認められて、その上で実行に移すに当たってまだそういった請願が出てきたという経緯があるわけですね。その請願に対しても一定の結果が出たわけですか。なおかつ、こういうことがまだ出てくるというのが、私は不思議でならんのかな。

○ 森川 慎委員長

ただ整理をさせていただきますけど、請願自体は、公私間の幼稚園の格差をなくしてほしいということと、今の公立幼稚園で3歳児保育をしてほしいと、そういう事項二つでありまして、第2次適正化計画自体にはあまり、含まれてはいますけど、全体を網羅しておるわけではないと私は認識していますので、その辺での情報の取扱い方、その辺でやっぱり温度差がそれぞれの園長先生同士でもあるやろうし、職員さんと園長先生とかこういうところでもあるでしょうし、そういうところでやっぱりなかなか確定的なことが伝わっていないのかなというふうなことを思うんですが。

○ 村山繁生委員

第2次適正化計画を実行しようとしたときに、今日の本題である募集のことを決めるわけですね。だから、第2次適正化計画を実行しようとしたときに、まだ請願も審査中やし、待ってもらってくれということで議長に申し入れられて、議長が市川副市長のほうへ一月待ってくれるというようなことを申入れして待ってもらったわけですね。それで結果が出たわけですから、私はもう。しかも、第2次適正化計画はそれまで18人に足らなんだところはもうということ、それを15人に緩和しておるわけですね、15人のほうに。緩和ですよ、これは。その上でしようとしたときにストップがかかって、実際に待ったわけですね。その上で結果が出て、私はもう肅々と、募集のほうはそのとおり進めるべきと私は思っております。

○ 森川 慎委員長

また本題がありますので、そのときにまたご議論いただければ。

○ 笹岡秀太郎委員

昨日の契約案件でも、課が違うところやであれやけど、ちょっと行政の丁寧さが欠けてるのじゃないかなという、個人的な遺憾ね。

ポイントは、ここに言えば降りてくれるだろうとか、あるいは忖度してくるだろうという甘い考えがあると、やっぱりこういう混乱になってくるのかなと。そういう意味でいうと、やはりもう少し丁寧に対応していくという姿勢が大事なので、ここはやっぱり豊田さんや中川さんがおっしゃるとおり、きちんと情報公開する姿勢を見せて、議会側もしっかりその辺の対応を取っていかないと、ちょっと大変なことになるのではないかなという危惧

をするところです。意見です。

以上です。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

全体として、情報はなるべく公開していくべきだということは確認をされたのかなと思っています。その方法については、ホームページの公開であるとかということは、また追々技術的な面も含めて検討する必要があるだろうというようなことだと思うんですが、そういう整理で改めて議長には一言申入れをしていこうかなと思いますけれども、よろしいでしょうか。

○ 豊田政典委員

言葉の問題レベルですけど、なるべくじゃなくて原則です。原則公開で、追々じゃなくて早くやらないと、この委員会も2か月で終わるでしょう。それが終わってからじゃ遅いよ。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

今日の合意をもって本日中に、またこの件については議長に申入れをしていきたいと思っていますけど、どう、仕組み的にどこで決定できるんですかね。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

議長に話せばいい。分かりました。

そしたら、そういうことで教育民生常任委員会としてはこういう合意が得られましたということだけご報告を早急にさせていただきますので、お願いします。

では、要望書に関わる情報公開云々の話はこの程度にさせていただいて、次の本題に入っていきたいと思います。

来年度、令和3年度の公立幼稚園の園児募集と、広報よっかいちへの掲載も含めて、周

知の方法等についてご議論をいただきたいと思います。

今日、また改めて21日の全員協議会で示された資料を2点再提出させていただいていますので、ご参考にしていただきたいと思います。

先ほど理事者のほうから冒頭説明がありましたけれども、三重県教職員組合三泗支部幼稚園部さんからの申入れと、現場の保護者の声ということで集約させていただいたものをお手元に配付していますので、この辺を参考にいただきながら、どうしていこうかというご議論をいただければと思っています。

何か、まず口火を切って、ご意見ある方。

○ 豊田政典委員

前回のこの委員会でもひとしきり話題になったんですけど、5月21日の質疑応答の中で、伊藤部長は、いつまで待てるんだという話をしたときに、議会が議論する期限の話、2回ありますよね。8月いっぱいまで待てるかと答えたように私は記憶するんですけど、そのときに。伊藤嗣也議員と森川委員長が質問した。間違いないですか。

○ 伊藤こども未来部長

この第2次適正化計画を進めるに当たって、園児募集がスタートになるというお話をさせていただいたかと思っています。

園児募集については、広報よっかいち8月下旬号に載せていきますので、7月上旬に原稿を上げなければいけないというところで、7月上旬ということです。8月というお話は、伊藤嗣也議員のほうから、今対象になる四つの地区の地元の保護者への説明という部分がいつになるのかという、いつまでかというお話の中で、8月下旬に広報が出るので、その前には説明したい。なので、8月上旬ぐらいですかねというお返事をさせていただいたかと記憶しております。

○ 豊田政典委員

それ、委員長、確認してくれた。

○ 森川 慎委員長

議事録で、確認、ごめんなさい、ちょっとそこまでしていません。

○ 豊田政典委員

まあ、いいや。まあ、いいけどさ。違うと思うけどな、俺は。

取りあえずいいです、この件は。

○ 森川 慎委員長

他にいかがでしょう。

園児募集……。

○ 日置記平委員

この前も僕も、それは聞きました。8月というの。園児募集が8月から始まる。7月までにまとめをしたい。議会にはそれまでに結論を、結論って、了解を全員一致でもらわなければいけないんですと説明は聞いた。

そこで私の考えは、今6月ですよ、もう。もう6月を終わろうとしておる。何で今頃にこんな問題をもたもた出してくるんやというのが私の考え。もっと1年前にちゃんとやっておく必要がある。準備をね。8月だけは頼むと8月、いや、7月末までにしなきゃいけないと。8月に広報で募集をかけるということなので、第2次適正化計画の中身、あろうとなかろうと。それは、時期的にここへ出てきたこと自体がもう既に遅いということ、1年遅い。これが私の考えね。

だから、そうすると募集ができないとどうなるか、今までどおりしたらいいだけの話やん。来年、またやり直せばいいわけ。これ、いろいろ今議論しているから。来年だったら駄目だということは絶対ない。今までやってきたんだ、今までやってきたんよ。新しいシステムに乗り換えようとしてできたんやけど、これだけ皆さんがいろいろ議論を闘わせる中で決行するのはよくないね。

それから、もう一つよろしいか。

新しい方法の内容を僕はまだしっかりつかめないんですよ。園児が減っているから統合して数を減らしていこうというところの起点は、僕自身は、園児が少ない、例えば5人のところで今まで、5人でもやっていく、5人だからそこはここに、あんた方の説明があったけど、数が少ないからできないことはない。これはできないことはない。やれるんです。やるほうをすればいい。効率が悪い。何の効率的かといったら、経費の問題だけです、こ

れは。経費の問題だけは確かに効率が悪い。統合したら当然効率がいい、財政的にはね。それが一番じゃないかなと僕は思ったの。財政問題で教育を語ったらあかんですよ。教育はやっぱり教育、しっかりと根差した教育をしなければ、本来の教育の目的から外れている。

私は出身、いなべ市なんだけど、いなべ市の山側で藤原町というのがあって、その奥に一つの集落があるけど、小学校5人や、1学年。それでも小学校、ずっと存続してきた。ところが、少人数学級のその地域の町は何とすばらしい教育がなされている。社会的に活動している、いろんな人材を見ても、少人数教育のほうですばらしい人材が出てきているという実績はある。だから、ここにあなた方の説明で財政面とは書いていないけど、金がたくさん要るから、やっぱり統合したほうがいいという考え方だけは外してほしい。たとえば、その園が5人であろうと、やっぱり地域に根差した教育をやってほしい。これが私の考えです。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。ご意見をいただきました。

整理としましては、本日はまず、来年度の園児募集、どうしようかということと、広報の掲載やその周知、この辺にまず絞ってご議論いただきたいと思います。日置委員のご意見は賜りましたし、また今後の議論には生かしていきたいと思っていますので、そういう整理で本日はお願いを、進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それと、今、ネット中継をご覧の方から、ちょっと委員の声が聞きづらいというような電話が事務局に入ったそうですので、改めてマイクに近づいての発言にご協力いただきます。

日置先生は大丈夫だったと思いますけど。私かな。そういう声があり、見ている方もおられるということですので、ご協力をお願いします。

今の日置委員のご意見は、来年はこれまでどおりでというようなご意見、これまでどおりの募集、同じことを今年はしまししょうよというご意見だったと思います。

他の委員さん、どうでしょうかね。

○ 豊田政典委員

いつまでに原稿というのは了解した上で、村山委員の前から言われていることが間違っ

ていると思うので一つ言いますけど、総合計画で第2次適正化計画なんて全く触れられていないですよ。そんなのリンクしていない、全く。そのことを前提に、日置委員言われたように、今、第2次適正化計画そのものについて、これから教育民生常任委員会でやろうというのが流れですよ。だから、そんな中で、適正化計画云々だとかそういうこと、募集に関して広報できるわけがないので、日置委員言われるように、今までどおり普通に、2年前、3年前と同じように募集すればいいだけの話だと僕は思います。

○ 村山繁生委員

豊田さんも総合計画の委員になられていましたやんか。その中で、公立幼稚園の在り方について議論しましたやんか。そのときにもう示されて、こういうふうなやり方ということとは、総合計画の議論の中でやりましたやんか。だから、何も全然議論されていないとかそんなことじゃないと思いますよ。議論した上で総合計画自体が可決されたわけですよ。

○ 豊田政典委員

委員が選ばれてやった総合計画の特別委員会の話だと思うんですけど、あのときの、この部分の議論を改めて振り返ると、私、確認したように、10年の間に公立幼稚園をなくすのかという話から始まって、どうもそうだと大西課長が答えた。それはまずいんじゃないかということで、文言を特別委員会の中で変えましたよね。それだけです。それだけで、第2次適正化計画はそのときに議論に上がっていないし、何も議会が認めたわけでもない。第2次適正化計画ね。15人だとか18人だとか。それだけです。だから、総合計画を可決したから第2次適正化計画が議会で認められたということには全くなっていないというのが私の見解です。

○ 村山繁生委員

確かにその答弁でこの問題が大きくなったことは、それはもう確かだと思うんですけども、その後、いろんな訂正もあって、今後の在り方をまた示されたと思うんですね。その辺の、一遍、ちょっと行政のほうに確認したいんですけど。してもらえませんか、その辺。

○ 森川 慎委員長

確認というと、具体的にもう少し。

○ 村山繁生委員

総合計画の議論で今後の在り方というのは議論されたと思うんですけど。

○ 森川 慎委員長

当時を思い出していただいて、その議論の過程において第2次適正化計画というものの自体は出てきてはないと思うんですけども、今の出ているような第2次適正化計画にそのような議論が委員会内でされたかどうかということを村山委員は問うているのかなと思いますので、答えられる範囲でお願いします。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

その議論の結果、村山委員がおっしゃられたように、現在の総合計画の内容でございますが、教育認定の児童については、公立幼稚園において公的役割を果たしていきます。なお、適切な集団規模での教育が困難な園については、認定こども園においてその役割を保障していきます。また、こども園においては、必要に応じて教育認定の3歳児の受入れの検討を進めますといった内容になっております。

この内容に基づきまして、第1次適正化計画に引き続き第2次適正化計画をお示しさせていただいております。その点におきましては、適切な集団規模での教育が困難な場合は、1次計画に引き続き認定こども園化を図るとしております。その上で、集団の規模がままならないといったところにつきましては、今回、改めて休園基準をお示しさせていただいた中での第2次適正化計画だと考えておりますので、一つ、やはりこの総合計画に基づいて本市のほうは第2次適正化計画をお示しさせていただいている次第でございます。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

第2次適正化計画に基づいているのは分かって、今のお答えは総合計画の文言ですよ、説明いただいた結果として出てきたというのは。そうじゃなくて、第2次適正化計画にそ

ぐうような議論があったかどうかというようなところを村山委員は問うたのかなと思うんですけど、そこ……。

○ 村山繁生委員

総合計画に基づいて第2次適正化計画が示されたということだよ。

○ 豊田政典委員

今、大西課長が言われたのは当然の話で、最上位計画の総合計画に矛盾するような計画というのは行政がつくるはずがないんです。だから、総合計画は我々認めた。それに基づいた第2次適正化計画、基づいたというか、それに矛盾しないような計画をつくりましたという話をされただけのことで、あの場を思い出してみても、幼稚園の今後の在り方については、あの場でやる時間もないし、その場面でもなかったという議論、私も発言しました、これは別の場面でやるべきだということで、ぎりぎりの修正をしたわけですよ、特別委員会で。その中身というか、それを受ける形で出てきた後で示されたのが第2次適正化計画だけれども、第2次適正化計画を真正面から議会と行政が議論してこなかったのも、この場があるわけですよ。だから、総合計画をもって第2次適正化計画が認められたというのは、それは間違いだということを私は言っている。

○ 村山繁生委員

でも、それに伴って、二、三回、議員説明会で議会も議論してきたと思うんですね、それは。それはそうですね。

○ 豊田政典委員

会議を持ったのは事実だけれども、そこで浮かび上がった課題について、議員同士でも議論していないし、決着していない課題があるので、この場になっているのだと私は理解しています。

○ 森川 慎委員長

第2次適正化計画自体の議論はまた後段でやりましょうということは前回の委員会で確認されておると思いますし、それぞれいろんな立場でいろんな議論がされることは、私は

大変市民にとっては好ましいことだと思っていますので、今の議論は大いに歓迎するところではありますけれども、今日のところは、来年度の園児を募集というのをどうしようかというようなところでまず絞っていただきたいなと思います。

○ 村山繁生委員

僕は、それに関しては言いましたよね、最初に。

○ 森川 慎委員長

もう一回言ってもらえますか。

○ 村山繁生委員

だから、ある程度議会の中で議論をして、請願の結果も出て今があるわけですから、これからいかに幼児教育環境を用意していくかというような建設的な議論やったら私も幾らでもしたいと思うんですけれども、なくすとかなくさんとか、そういう問題ではなくて、やっぱり一番、今、日置さんも言われたけど、財政的な理由でこうなっていくだけでは私は全然ないと思います。やっぱり一番肝腎なのは幼児教育環境だと思うんですよね。そのための議論なら幾らでもしたい。今回の募集に関しては、私はもう粛々と第2次適正化計画に基づいた募集で、私はやっていくべきだというふうに思います。

○ 森川 慎委員長

行政が示しているような内容で進めるべきだというご意見ですね。

他にいかがでしょう。

○ 日置記平委員

角度がずれたら委員長、制止してもらいたいけど、一遍基本に立ってくれるか。部長、あなたに申し上げたい。よろしいか。基本に立ってくれるか。この新しいシステムを導入しようという基本はそこそこ理解できた、市側の。だが、市長は何て言っているの。市長は常日頃、子育てするなら四日市と力強く言っている。市民はほとんどの人がそれは頭に入っている。その中で保護者からこういう課題が出てきた。それは、市長の言う子育てするなら四日市に迎合していない。マッチしていないやん。していないんです。していたら、

この人たちは満足する。何も、市の政策にイエスが出てきているはず。そこで、ここまで問題が出てきたのだから、それをあなた方は、市長の方針の子育てするなら四日市に、これ、今の問題が出てきて、どう考えていますか。

○ 伊藤こども未来部長

日置委員のほうから今ご質問をいただきました。

まず、私どもが最も大事にしたいところはやっぱり、先ほど村山委員もおっしゃられたように、幼児教育の環境というところをしっかりと行政としては整えていくべきであろうというふうに考えています。その一つがやっぱり集団の確保というところになってきます。やっぱり幼児期には特に社会性が育まれる時期でありますので、園での生活がある程度の、やっぱり人数の中でけんかしたり、いろんなことを協力したりという経験を通して、子供たちが社会性、協調性を育んでいくということが大事だというふうに思っています。そこが総合計画でもうたわせていただいてある適切な集団規模での教育。それが幼稚園で困難になった場合はこども園化をして、その規模の確保をしていこうというところでございますので、子供たちの教育環境の整備を整えていくというところについては、子育てするなら四日市という方向と違わないというふうに考えております。

○ 日置記平委員

その教育環境をベストな方向に整えていくという方向性に待ったをかけたんだよ。あなたの言う教育環境を整えて云々という説明は理解されていないということじゃないの。これをどう整理しますか。

○ 伊藤こども未来部長

やっぱり保護者の方々に、これはもう私どもの反省すべきところだと思いますが、新しくできたこども園というものがどういうものかということがやっぱりしっかりと分かっていたいていないという部分が大きいのかなと。だから、今までは保育園か幼稚園か、平成29年度からこども園という制度が始まったわけですけど、新しい制度というところ、こども園自体がどんなことをしているのか。中身が分からないというご不安を非常に保護者さんは持ってみえるんだろうなと、いろんなお声を聞かせていただく中で感じています。その辺りはきちんと行政として、こども園化される地区の保護者さんには個々にご説明は

させていただいてきたところなんです、全市民向けの説明がちょっと不足しておったんだろうなというふうなことは考えております。

○ 日置記平委員

あなた、あまり理解していない。なぜかといったら、反省はしているよ。何を反省かといったら、こども園という総合プランに対して保護者は理解していないと思うと言わはったんや。ここが問題なの。よろしいか。それでもやっていくの。また笹川問題みたいにクーデターが起きるよ、これ。市長の責任を問われる。子育てするなら四日市なんや。そこまで強い信念を持っておるんです。それはええやんね。それをあなた方が受けてするのなら、反省をしたのなら、その反省に基づいて、保護者にハートで説得したらええやん、説明したら。そうしたら理解し合えるでしょう。理解しないうちに進めるなんて言うたら、あなたの生命にも関わるよ、今の職責の。市長から指示があったのか。あなたの今のポストの前に副市長がそこに見えたけど、そういうラインで来たのか、僕は見えないけどね。でも、基本は、市の政策について、市民がそこそこの合意形成をつくらないと駄目です。議会としてはそれは承認できない、ちゃんとしてくれないと。分かってもらえたかな。

○ 森川 慎委員長

ちょっと日置委員もおっしゃっていただいたんですが、やっぱりどうしても第2次適正化計画の中へ入っていつてしまうもので、ちょっと収拾がつかなくなって申し訳ないんですけれども。

日置委員と豊田委員は、来年は肅々と前年を踏襲して募集していこうと、していくべきだというご意見と、村山委員は、行政が示したとおりに、そのとおりにやっていけばいいんだというご意見でございます。

発言されていないほかの委員の方からご意見を賜りたいと思います。

○ 中川雅晶委員

私は、今、公立幼稚園の問題になっていきますけど、それを考えるに当たっては、四日市の就学前教育・保育全体を捉えて議論していかなきゃいけないと思います。片や、園児がどんどんどんどん少なくなっていく。片や、入れない子供たちがいっぱいいるという状況は、これはやっぱり是正をしていかなきゃいけない。全体で捉えなきゃいけないのが1

点と、それから、総合計画の中に、先ほども繰り返し言われているように、本市の教育認定の児童については、公立幼稚園において公的役割を果たしていきますと。なお、適切な集団規模での教育が困難な園については、認定こども園においてその役割を保障していきますとなっておりますので、どういう教育をしていくかというところには、やっぱり集団教育、ある一定の集団での教育を質と考えておられるので、その質をやっぱり担保するためには認定こども園化をしていかなければならないと。これは子供の視点に立てば、僕はそうかなと思います。

あと、先ほど言いました、認定こども園の中身がよく分からないというのが、まさしくその辺をこの後、議論していかなきゃいけないので、今は言及しません。じゃ、今後、どういうふうにしていくかとなると、休園の基準を記載して、皆さんに今言った総合計画に位置づけられている集団の教育を実践するためには、休園の基準を記載して募集をするか、また、記載せずに募集するか、二者択一だと思うんですけど、僕は非常に悩んだ、悩むんですよね。中身をちゃんとやっぱりいろいろ情報共有して決めていかなきゃいけないし、いろんな手順を踏んでいかなきゃいけないというのはあるんですけど、そうすると、知らせないまま、先ほどの冒頭、やっぱり情報共有してくださいと、私たちに知らせてくださいと、どういう状況かちゃんと現状認識をした上で選択をさせてくださいという声なき声があるのかなと思うと、単に引き伸ばしするだけというのも責任ある選択ではないのかなというふうに思います。

特にそこに通園する子供のことを考えれば、うやむやにして下手して1人だけとか、1人、2人、3人の園ができるようなことがあってはやっぱり責任を果たしたとは僕は言えないと思うので、少なくとも、やっぱり休園基準を記載して、しっかりとこういう現状を認識した上で園に選択してくださいねというのは必要かなと思います。

ただ、その後、書きぶりをどうするか。なお継続的に協議中であるとか議論しているとか、具体的に米印の後の記載内容がなかなか思い浮かばないんですけど、大前提としては、ここを目隠しして募集するというのはやっぱり逃げかなと思うので、やっぱり休園基準は休園基準としてしっかりと記載した上で募集をしていくということは前提にした上で、あとは議会として、文言を少し加えて、引き続きこのことについてはちゃんと情報共有しますし、皆さんの声も聞きながら議論していきますよということが伝えられればいいんじゃないかなというふうに思うんですが。

○ 森川 慎委員長

ちょっと待ってください。

中川委員のは、来年度の募集に向けての広報の際に、こういう休園・廃園基準で進めていきますということを書きつつ、まだでも、こういう書き方はあれですけど……。

○ 豊田政典委員

さっき村山委員が言われたところに戻ると、この委員会でもそうですけど、これから公立幼稚園の第2次適正化計画について議論しようというのは、当然課題はあると思っているけど、建設的な話ですよ。幼稚園はどうしていくか、幼児教育をどうするか。そのことは、建設的な話をしようというスタンスは、これは共有していると思っておいってください。少なくとも僕とは。第2次適正化計画をやめろとか、そんな議論をする気は全くなくて、課題がある部分について、みんなで認識を一つにした上でどうあるべきかというのを話し合いたいというのが私の考えで、ほかの方もそうだと思います。

ちょっと委員長に聞くけど、委員長、さっきこども未来部が示しているようにとか言いましたが、何か示しているんですか、広報の仕方。

○ 森川 慎委員長

広報の仕方というか方針が5月21日の全員協議会で示されておるもので、ここではもう、言いますけど。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

いや、だから、それに従って、こういう園児の募集をしますということが、21日の全員協議会で資料を基にして示されていると認識はしています。村山委員などがおっしゃっているのは、示されたとおりに募集していけばいいんじゃないかというご意見だと思うんですが。

○ 豊田政典委員

この赤い部分、別にそうは示されていないやんか。中川さん言われるように、書きっぱ

りとかね。要するに、この4園についてやめるとか、こども園化するとかいうことを書くということ、向こうが。こども未来部が言おうとしているのは。

○ 森川 慎委員長

そしたら、理事者に聞きましょう。伊藤部長に。

当初、21日の資料を示した段階で、来年度の園児募集について、広報よっかいちの載せ方も含めて、どのような広報を具体的にしていこうと思っていたか説明をいただけますか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

広報の内容でございますが、考えているところでは、令和4年度の公立幼稚園の園児募集に関し、例年どおりの園児募集の内容に第2次適正化計画の内容である休園基準も併せての掲載を予定しております。

また、その内容に加えまして、本市における今後の公立幼稚園・保育園、幼保連携型認定こども園についてとして第2次適正化計画の内容を掲載してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

分からん。もう一回、ごめんなさい。

○ 伊藤こども未来部長

具体的に、今、5月21日にお示しした資料の新入園児の募集についてというところにも書かせていただいておりますが、富田、川島、桜、三重西幼稚園が今現在、総園児数が15人を下回っております。その4園については、令和4年度の総園児数、令和4年度、募集した結果、4歳児、5歳児の総園児数が15人を下回った場合には、令和5年度の新入園児の募集は行わないということを明記していくということでございます。

○ 豊田政典委員

5月21日の資料に書いてある文章ほぼそのまま、普通に募集するけれども、4園については説明書きが加わるということですよね。村山委員と中川委員言われるのは、第2次適正化計画をそのまま載せると、これでいいじゃないかと言われるけど、それ、すなわち、この委員会の否定だと僕は思いますよ。さっきから言っているように、お二人は第2次適正化計画に課題はないと思っているかもしれないけど、議会の中には、少なくとも私は課題ありだと思って、これから議論しようとしているわけですよね、これから。だから、今後のこの4園の在り方についても異論あります、私は。なのに、それを載せていこうというのはどういう了見なんですか。この委員会をやる意味ないじゃん、そんなのやったら。考え方が分からない。

○ 笹岡秀太郎委員

いろんな意見と、それから、理事者の今初めて出た声もあるので、少し休憩いただいて、整理していただけますか。

○ 森川 慎委員長

休憩、今取ろうとは思っていたんですけど、ここが一段落してからと思っていたんです。1時間たったので、休憩しましょうか。何とか今日中には合意を私は取っていきたいと思っていますもので、ちょっと休みの間もいろいろ皆さん考えていただきたいと思います。

じゃ、あの時計で午前11時20分まで休憩にします。

11：06 休憩

11：22 再開

○ 森川 慎委員長

それでは、再開をさせていただきます。

まず、やはり本日中には、この来年度の園児募集の方法なり、広報の掲載については合意を必ず得たいと思っていますので、当然ながら第2次適正化計画なり、就学前の教育環境についてのご意見はたくさんあると思うんですけども、ちょっとその辺の論点だけ絞っていただいて、議論の進行にご協力をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

いをします。

豊田委員が先ほど言ってもらって、途切れたんですけど、それだけ決着させましょうか。
もう一回、ちょっと簡単に。

○ 豊田政典委員

広報の載せ方、今議題になっている。村山委員や中川委員言われるような、第2次適正化計画を載せて、それに従った募集をするというのは、計画があたかも決定されたような広報じゃないですか。あたかもというかこの計画は、少なくとも4園については認めた上で広報しようというお話でしょう。それを今からまさにこの委員会で、議会で議論しようとしているんだから、そこは変えちゃ駄目じゃないのと私は言っている。

○ 森川 慎委員長

そういうご意見が豊田委員から。

○ 笹岡秀太郎委員

いろいろ考えてみると、確かに豊田さんのおっしゃることも正しいのかなという気がするんですけど、ちょっと理事者に聞きたいんですけど、今、大西さんに説明していただいた募集の仕方、ルールを説明していただいたけど、これはまだ決定していないわな。そういう案やろう、案でしょう。間違いないよね。

それで、引き続きますが、そうするとこの委員会で、募集とはちょっと離れてしまうかも分らんけど、議論をしましょうねというところの、いわゆる議論の内容が反映されない募集方法になってしまうという危惧をするんですよ。その辺、理事者はどう考えているんやろう。

○ 森川 慎委員長

第2次適正化計画の取扱いについて議論していこうという合意は、全員協議会も含めて、委員会も含めて合意されているという話で、その議論を前提とした募集とすべきじゃないかというのが笹岡委員のご意見かなと思うんですが、今のそれを出されたままで広報していこうというと、そこが踏まえられていないんじゃないかというご指摘かと思うんですけど、理事者の受け止めをお聞きしたいと思います。

○ 伊藤こども未来部長

今、笹岡委員からお話がありましたように、私たちは、この8月の広報が第2次適正化計画を進めていくかどうかの肝だと思っております。本日それをどういうふうにしていくかということをここでご議論いただくということでございますので、私どもとしては、その決定に沿って広報については進めていくというふうに考えております。

○ 笹岡秀太郎委員

例えば、今、案でもし出したとして、委員会の中でいろんな議論が出て、違う方向性が出た場合、それは修正可能ですか、募集内容の。もう一遍言いますと、今の太西案と聞いていいかわかりませんが、案をそのまま広報していった場合、もしも我々がこの委員会の中で様々な議論を重ねていく中で、やはりこれはこうしたほうがいいよねという案が出た場合、修正は可能ですかということを確認したい。

○ 森川 慎委員長

今の募集、この広報はそのまま出したとしても、その後の議論でここはもうちょっとこうすべきだったという意見が出たときに対応ができるのかどうかというご質問ですね。

○ 伊藤こども未来部長

今の笹岡委員のご質問は、この4園については、先ほど私が申し上げたような広報をしていくけど、その後で修正が可能かということによろしかったですか。

○ 笹岡秀太郎委員

だから、全て含むかなという気がするんですよ。今、私が太西さんに聞いた募集案内の中に、るる細かく載せていただけるという話だけれども、その内容を1個ずつ検証していく、ここの委員会の中で一一検証といったら言い方はおかしいけれども一一していく議論の場になるのかなという気がしているので、それを反映していこうと思うと、修正が利くんですかということなんです、シンプルに。この委員会が出たことは、いや、無駄な議論ですよというのか、議論は尊重しますよというのか、どちらですかということです。

○ 伊藤こども未来部長

基本的にこの議会で行われる議論は尊重していくということだと思っております。

○ 笹岡秀太郎委員

そうすると、例えば従来どおり募集をかけておいて、委員会中で議論なされているところを反映したものが後日示されますでもいいの。それだと募集業務に影響がありますか。

○ 伊藤こども未来部長

従来どおりの募集ということになりますと、結局、今、私どもが考えているのは、この今出ている4園については、もし総数が15人以下になれば、令和5年度の入園の募集はしないということになっておりますが、それを明記していかないということは、それが1年ずれるというふうなことになるんじゃないかと思えます。

○ 笹岡秀太郎委員

例えば1年ずれるとどんな問題が出ますか。

○ 伊藤こども未来部長

私どもとしては、先ほどから申し上げていますように、集団の確保を早くしたいという思いでおります。ですので、子供たち、5歳の子たち、4歳の子たちは今2年保育ですけど、その子たちが1年ずれることによって、その1年間、小さな規模、集団の中での教育ということになることについては少し危惧するところではございます。

○ 笹岡秀太郎委員

分かりました。

あと、皆さんの意見を聞いて判断していきたいなと思うんですが、個人的にはやっぱりここの議論が何とか反映できるような手法があれば望ましいなと思うので、もう少し皆さんと議論を深めていきたいと思えます。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

ちょっとごめんなさい。確認ですけど、広報よっかいちは8月下旬号に載せていくという予定なんですけど、実際の来年度の園児の募集の、事務的な手続のスケジュールとかというのはどうなのでしょう。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

実際の募集といたしましては、広報よっかいち8月下旬号に、園児募集として募集のお知らせを公表させていただきます。その後、実際の園児募集の受付としましては、9月7日から9月30日までの約1か月間、募集期間といたします。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

分かりました。ありがとうございます。

○ 土井数馬委員

ちょっとずれたら、委員長、訂正してくださいね。

スケジュールは、今、笹岡委員からもありましたように、内容を変えられるんだったら別にスケジュールどおり進めればいいし、ただ、それを記載しないのであれば1年ずつ延びていくわけですね。集団の形成がなかなか難しいというような話もありましたけれども、私、ちょっと気になって、ずれておったらごめんなさい。

3歳児保育はどうなったんでしょうね。ここへはもう全然募集って書かないわけなんですけど、実際はやっていないわけですので。ただ、例えば今の幼稚園で、もし3歳から預けれるようになったらお宅は預けますかみたいなアンケートの調査も1回したらどうかなというふうに思うんですよ。それで人数が増える、驚異的に増えて私立に迷惑をかけるようなことはないとは思いますが、だから、それである程度集団が確保できるのであれば、そういう部分、見通しをつけるのも一つの方法じゃないかなとか、これは提案です。

それと、平成29年から認定こども園が始まっているというふうなお話がありましたけれども、今回また、どこでしたか、富田、川島、桜、三重西幼稚園ですか、ここでもし15人に満たないようであれば、再来年から始めるということなんですけど、ただ、四日市におけ

る認定こども園について、実際今まで5年足らずか、総括ができていいのか、僕が見逃していたらごめんなさいよ。四日市における認定こども園というのが、実際この四日市の保育園や幼稚園の、今まで四日市が行ってきた事業に対して、全国的には認定こども園ですけども、その地域地域でやっぱり合う合わないというのはあるんじゃないかと僕は思うんですけれども。

だから、保育園であれば、四日市であれば障害児保育とかも全国に先駆けてやってきたとかそういうふうなものもあるわけで、幼稚園であればこれはもう全国でも同じだけど、地域に根づいた幼稚園で、この辺の親の声にも書いてありますけれども、だから地域に応じて、認定こども園にした場合、今の四日市になじんでいるかどうかもうやはり一度検証する必要があるんじゃないかなという、そんなふうなことを考えれば、募集するにしても、その辺も踏まえて、今年度は同じように募集するのか、あるいは笹岡さんが言いましたように、ただし書をつけて、どっちにしても1年、15人に満たなかったら第2次適正化計画で再来年からやというのがあれば、もう一年延ばしたって、そうあれかなというふうな気はするんですけど。ただ、3歳やったら私のところは入れたかったというのがあって、それはもうただし書を書いて、一応アンケートですよと、今こういう調査をしているんやというのは取って、先行き見通しが出れば、希望が出れば、そういうふうな方向もあるんじゃないかと、こう決めたらこうやって走るんじゃないしに。で、いろんな資料にもありましたように、親は聞いていなかったとか、第2次適正化計画でも知らんですよ、中身までね。僕も、この計画の中に3歳児保育って入っていたかって、多分入っていないと思うんですよ。

その辺の3歳児保育の議論は抜いて今話をしているんですけど、それは入れてしゃべっていいのかわからなかったもので、ちょっと委員長に尋ねたんですけども、アンケートを取るぐらいなら別に構わんのやないかなという気がしております。それと、認定こども園の総括。認定こども園が四日市の幼稚園、保育園の事業にうまく合っているのか、なじんでいるのか、自信を持って進めていけるのか、その辺をきちっと示してもらうことも僕は必要じゃないかなというふうに思っております。これは希望ですけども、意見として申し上げます。

○ 森川 慎委員長

私も、四日市市のこども園が、今後も含めて今もどうなっているのかということが、ど

うしていくかということが、今回の第2次適正化計画の肝になってくると思っています。今現状、私の認識というか事実としては、いわゆる教育認定、第1号認定と言いますけれども、保護者の方が、両親が働いていないような家庭ですね、そういう子供たちは、今現状、四日市市の公私認定こども園では一切受け入れていないというのが一つ事実としてあります。これは全国的にも四日市だけかな、ちょっと事務局でも調べてもらったんですけど、確認できるのは四日市だけなのかなという今認識です。ここをどうしていこうかというのはすごく大事なところで、この委員会でも、今後の議論で私は深めていきたいなと思っていたところなんですけど、土井委員、今こういうご意見をいただいて、アンケートを取るとか、その辺の提案がありましたけど、今の段階で答えられるところはありますか、理事者のほうで。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

土井委員と、あと委員長のほうから、こども園に関して、特に委員長のほうからは、四日市市の、要は公立の現在のこども園におきまして、3歳児、要は1号認定の保育を实际していないのは四日市のみというか、四日市市だけじゃないかといったあたりで、その辺の意図はといったところで捉えさせてもらいましたが、よろしいでしょうか。

○ 森川 慎委員長

というか、土井委員のご提案は、こども園で3歳児を預かるというようなことが、こども園じゃないのかな、公立幼稚園も含めて3歳児を預かるというようなことができるのであれば、入園を希望するような方も増えるんじゃないかという話で、そういう意見なり、アンケートを取っていくというようなことはどうやろうというような投げでよかったですね、土井委員。そういうことを今ご提案いただいたのかなと思って、私の先ほど言ったのは、今後の第2次適正化計画の是非なり、不足部分を議論していく中においては、認定こども園の在り方というのは一番の肝になってくるんだろうという認識ということで、意見を述べさせてもらったにすぎませんので、そこまで今入っていくつもりはありませんので、今、土井委員がそんなお話をされたんですけど、その辺の受け止めなり捉え方はどうでしょうかということだけ、まず、ご感想でも結構ですので、お伺いしたいと思うんですが。

○ 大西保育幼稚園課長

どうもすみませんでした。

それで、教育認定の3歳児につきましては、これは第2次適正化計画にも要は含まれておりますが、総合計画の方針に基づいて、こども園において、必要に応じて教育認定児の3歳児も受入れの検討を進めますといったところで、本市はこの方針に基づいて進めてまいりたいと思っております。

そしてまた、アンケートといったあたりでも、潜在的なニーズの部分につきまして、例えば、現在3歳児のお子さんでどこにも属していない児童の数は把握しております。そういったお子さんが、場合によれば教育認定の公立の部分で望まれるのかといったところは想定をしたりはしておりますが、いずれにいたしましても、教育認定の3歳児につきましては、総合計画に基づいたところでの、要はこども園での受入れの検討を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

検討なんですけど、確定しているわけではないですね、そこは。

○ 土井数馬委員

こども園で3歳児のほうも進めるというふうな話ですけれども、ただ、私が言いましたのは、今ある幼稚園は恐らく各地区というか地域の中にありますよね、昔からある幼稚園です。だから、地域の子供を全体として、もし、例えば富田幼稚園が3歳児の受入れを始めた場合、その対象の子供たちは入れられますか、あるいは私立へ入れますか、そこまで聞くのかどうか別にして、そういうふうな地域でやっぱり取っていかないといかんのじゃないかなと思います。

この中にもあるように、幼稚園は地域で、それで小学校に進めていくんだというふうな考え方がどの親にもどうもありそうですので、そういう進め方でいって、どこにも行っていない子供にアンケートを取るんじゃないし、その地域に限ってやっていくほうがもうちょっと正確な数字が出るんじゃないかと思うし、今後の先行きももう少し見えてくるんじゃないかというふうな気がするものですから、これは一つの提案ですので、今、園児募集についてどうのこうのとなっていますけど、直接の園児募集じゃないですけど、3年後ぐ

らいに見通しをつけるような形でやるのはどうかなと。その地域の幼稚園でどうかなというのを確認してほしいなというふうには思っております。

○ 森川 慎委員長

そういうご意見をいただきました。

○ 小田あけみ副委員長

土井委員の関連で、ちょっと大西課長に確認したいんですけれども、3歳児でどこにも属していない四日市の子供は何人いるんでしょうか。

○ 森川 慎委員長

すぐ出ますか。

○ 大西保育幼稚園課長

すみません、ちょっとお時間をいただいていいですか。

○ 森川 慎委員長

その間を利用して、ちょっと私見を述べさせてもらいますけれども、こども園に移行していくというのは、当然流れとしては理解するところではあるんですけれども、それは付随して、今の公私の保育園の子供たち、この辺のところも私はセットかなと思っているんです。例えば、桜の保育園をこども園化していくという際には、やはりそこで、幼稚園の子供たちがそこへ流れていくということを考えると、改めて待機児童の問題とか施設面の問題とか、こういったところもやはり地域によっては大きな問題になってくると思うので、公立の幼稚園、こども園だけでの調査をしても、まだまだ不十分なところはあるんじゃないかなって、私は今聞いていて思ったところです。

調べられましたか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。お時間を頂戴してすみませんでした。

令和2年度の10月の状況でございますが、3歳児の在宅等の状況は174人と把握してお

ります。

以上でございます。

○ 小田あけみ副委員長

ありがとうございます。

174人が全て公立に入ったとすると、10人ずつぐらい増える可能性はあるということですか。ちょっとそういうことが何らかの今後の数字に関わってくるかと思ってお聞きしました。

私の意見を言わせていただくと、子供を持つ母親というのはこの委員会で私しかいませんので、しかも公立に通わせておりましたので、今回出てきた保護者の声というのはとても理解できます。その中で保護者の声をずっと読んでいきますと、先が見えないのが一番つらいと。来年どうなっているのかが分からないのがつらいと、これはすごい共感できます。いろんな行き先が示されますけれども、存続であったり、こども園化であったり、廃園であったりという、来年どうなるか分からないというのが一番つらいと私も思います。

子供を持つ親としては、自分の子供が行っていた幼稚園に下の子も入れるかとか、そういった目安を、3年ぐらい先までを見通せるような計画がやっぱり必要やと思っています。今回示された第2次適正化計画は、そういう意味では、保護者にはあまり伝わっていないという点で議論が成熟していないのかなというふうに感じました。去年の教育民生常任委員会でもこの問題は議論されてきたと思いますし、昨日、今日出てきた計画ではないというふうには思っておりますけれども、やはり先が見える計画、四日市は幼稚園に対してはこのように考えています、こういうふうに将来はなりますというのを示していただきたい。それがあればこども園化に必ずしも反対するものではないというふうに書いている保護者の方もおられます。私もこども園化が必ずしも悪いとも思っていませんし、地域の幼稚園がこども園になることは全く問題ないのではないかというふうに思っています。

ということで、私の意見としましては、肅々と言いたいところなんですけれども、今年は例年どおりにして、1年間かけて、将来の四日市のこども園はどうなる、幼稚園はどうなるというのを議論した上で、来年募集をかけるときにそのことを書くという、そういう案を提案したいと思います。

以上です。

○ 土井数馬委員

当初のスケジュールで、募集のスケジュールをどうするのかというので、まずもんでもらうということだったんですけど、大体皆さんの意見が出そろったんじゃないかと思うんですけども、その辺で採決するわけにはいきませんので、委員長のほうでまとめてもらいますが、理事者側もいろんな委員の意見を聞いたのであれば、代替案というか、何か腹の中で思っていることもあろうかと思いますので、今、委員長のほうから一度集約してもらって、行けるかどうかの判断をそろそろしてもらいたいんじゃないかというふうに思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。

○ 森川 慎委員長

行けるかどうかというのは……。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

そういうことね。

小田副委員長は例年どおりをまず踏襲するしかないんじゃないかというようなご意見だったと思います。

委員会として、この議論自体を受けて、何かしらの方向性を出していこうというところまでは合意をされていまして、その後、笹岡委員に指摘をいただきましたけど、今現状で、こういう基準で廃園、休園をしていきますというような広報をされた後では、やはりなかなか議論の結論を反映するということは、私は難しいのかなというようなことを思います。

当然ながらこの議論も含めて、そんなに1年も2年も先延ばししていくつもりは私、全然ありませんし、極力保護者の方や地域の人たちが心配しないような、不安を取り除けるような形での大きな方向性はやはり早い段階で出していくべきかなと思います。その上でどうしていこうかなというお話ですけど、現状は、やはり広報は例年どおりにしていただいて、当然この議論自体は多分一月、二月ぐらいの間に結論は出したいと私の中でも思っていますし、議長からもそんなふうなことをちょっと言われたというような経緯もありますから、園児募集が実質的に始まる時、ですから、今言われたのは9月7日から30日の間、ここのときに、将来どんなふうになっていくかなというところが示せば、不安とい

うのは幾分軽減される。そこで、休園、廃園というところの基準にこのとおりいきますという結論が出ているかもしれませんが、今、現段階で皆さんのいろんな意見を集約して、最大限配慮しながらというようなことを考えると、そういうようなことしか取れないのかなと、今現状で私の思いではあるんですが。

ですから、私の思う結論としては、例年どおりの内容で公立幼稚園の園児の募集を広報してもらおうと。その間、正式に募集の受入れが始まる時期に、委員会としての結論、そして全員協議会での結論、大きな方向性を示して、それに基づいて行政がこういうふうになりますというような指針を示されるようなところへ持っていければなというようなところが、一番最後の落としどころかなと思うんですが。広報に載せる必要性云々というのは当然あるんですが、あまり拙速に、数か月のところを急いで結論を出して、子供たちの2年、3年、5年、10年という、そういう将来を決めてしまっているのかなというところも私は思うところですので、そんなふうなのでどうかなというところなんですけれども、どうですかね。

○ 村山繁生委員

やっぱり私はもうそれは引き延ばしやというふうに思います。これは総合計画に基づいて第2次適正化計画を出され、昨年の教育民生常任委員会にも提案されて議論されてきた。そしてまた、こども園化するということは、もう1次計画の中からも、もうずっと前から行く行くはこども園化するというとも言われております。

私は、確かにこども園の中身を説明する努力が僕は少なかったなと思います、それは確かに。私、実際、橋北こども園に行きました。皆さんも行くべきやと思います。いろんなところ、もうやっているこども園に。その上でやっぱりこども園に対しては語ってほしいなと思います。私も行った中では本当にいいことばかり聞いてきましたし、本当に。だから、僕、行政は示していない示していないというけど、示しているわね、ずっと前から。

今回こういうふうな募集をするということは、私は、行政にとっても苦渋の決断であったなというふうに思っています。それはやはり何といても子供の教育環境やから、そんな3人や4人のところでずっとやっていくわけには、それはもう絶対いかないと思うんです、それは。それをあえてまた1年延ばすということは、私は、これはやっぱり議会としても逃げやと思うし、行政としても逃げやと思う。今回そのような決断をしてきたわけやからこれを私は尊重して、その後のことはまた考えたらよろしいやん。前に進めるための、

私はこれは決断だと思いますので、やっぱりもう先ほど言うたように、私はそういうことでやってほしいなと思います。

○ 森川 慎委員長

ちょっと待ってください。私は決して1年延ばそうというような提案はしていません。広報は広報で期限があって、7月1日までに出してほしいということは行政から言われていますので、それはどうしようかというお話ではありますが、委員会として、議会として何か結論を出すのは、実際に募集が始まるのであれば、こういうことになったということは説明できるのではないか、そこまでに結論を出したらどうかというようなところでご提案をさせていただきました。決して引き伸ばすというか、そういうことは全然ないですし、それこそ豊田委員であるとか、村山委員、それぞれ意見が違って、一番みんなが合意できる場所はどこなのかなということで私は提案をさせていただきました。

○ 村山繁生委員

それやと中途半端やと思うんですよ。募集して結果を見て、そんなのやったら余計に…。

○ 森川 慎委員長

違う違う、募集が始まる前です。9月7日からが実質的な園児募集が事務的に始まっていきますので、その前の8月に、9月7日に向けての調整というのはまた必要だと思いますから、議会として8月の末頃をめどに、方向を出していくというところでどうかというような提案です。広報よっかいちには間に合いませんけれども、実際の募集が始まるころでは、それは結論として、園児の15人を下回った場合は、桜や三重西やという、こういう四つの幼稚園は、行政が今示しているとおりになるかもしれませんが、そこまではみんな議論を尽くしませんかというような私の提案です。

私の考えているのと村山委員の考えというのは当然、いろいろ意見のそごはあると思いますが、そこを最大限それぞれ尊重して、見つけられる合意点ということで私は提案させていただきます。

○ 村山繁生委員

でも、やっぱりそれは募集要項に応じて保護者も判断するわけやから、募集要項はそのままにしておいて、募集が始まってからって、それではちょっと遅いよ。やっぱり募集要項のときにきちっと判断をしておくべきやと私は思います。募集要項はそのままにしておいて、実際園児の募集が始まるときにこうなったんやわって、それではやっぱりちょっとおかしいなと思う。

○ 森川 慎委員長

募集要項というのは、広報よっかいちと同じスケジュールなんですか、示されるのは。事務的な話ですけど。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

広報に出る内容に基づいて、募集要項と申しますか、募集を進めてまいりますので、同時期だと考えております。

○ 森川 慎委員長

先ほどどなたか手を挙げましたね。日置委員、手を挙げてもらいましたかね。

○ 日置記平委員

いろいろ委員長ご苦労いただいているので、委員長の全体の雰囲気の中での思いをさっき語ってもらったんで、それでどうかという意見です。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

村山委員のおっしゃることも当然、全く理解しないところではありませんので。

○ 日置記平委員

私も基本的に提案されたものを絶対駄目だという反対のための反対じゃない。だから、ここでいろいろ議論が出てきたから、やっぱりよりよい方向性に行くために議論したので、中には反対やという人もいるでしょう。中には賛成やという人もいるでしょう。その間を

取って委員長が判断を、それなりの方向性を示してもらったので、それでいったらどうということですよ。

○ 豊田政典委員

今、話を聞いていて、森川委員長の広報の後の話、9月7日までに云々というのは、僕は反対です。反対ですけど、せっかく正副委員長が考えて、休憩中も考えて提案してくれた内容に、僕は反対やし、村山さんも別の意味で反対だけど、ここはもう委員会として、やっぱり譲るところは譲って、正副委員長の提案に向けて一回努力しましょうに。僕はもっとやるべきだと思っています。副委員長言われたように、1年でもやるべきだと思っているけれども、それでは合意が取れないので、妥協案ですよ、7月、8月で集中的にやって、その後は議長が判断することだけど、議長に我々全員で、9月7日までに間に合うようにやってくれというようなことも言わなあかんでしょう、どこかの場面で。というか早めに。それも含めて、ちょっと一丸になって取り組んだらどうかなと思いました。

○ 森川 慎委員長

他の委員の意見を。

○ 中川雅晶委員

要は7月、8月で結論を出さなきゃいけないでしょう。

○ 森川 慎委員長

そうですね。

○ 中川雅晶委員

時間的に非常に短い中で、これ、先延ばしすると、ただ単に1年、2年先延ばししてしまうというところが、結果は分からないですけど、休園基準をしっかりと知らせた上で議論するのと、隠した状態で、結果、こうなりましたというのとでは意味合いが違うのかなって、保護者から受けるね。だから、やっぱり休園基準をしっかりと示した上で募集をかけていくと。ただし、この中で議論をしていくというところで修正があるかもしれないし、先ほど笹岡委員から、その辺の部分はどうかと言われたら、議会の意思は尊重します

ということなので、その中でいろいろ修正があったりとか、もっとこども園の中身、3歳児保育の受入れもどんなことをクリアしなきゃいけないのかというのもやっぱり明確にしていく。ちゃんと先々まで明確に示していった上ですと。でも、前段のところで、やっぱりなるべく総合計画に基づいている一定の集団の基準で幼児教育を行うということは、やっぱり担保してあげなきゃいけないんじゃないかなって。それを安易に1年先送りするということは、その1年間、先送りされる子供が出てくるというのがどうしても僕の中に引っかかるんですよ。だから、やっぱりそれは知らせてあげるということは必要ではないかなって。結論はどうなるか分からないんですけど、どうしてもそこを隠してというのはやっぱり情報共有にならないというふうに思います。

○ 豊田政典委員

だから、休園基準を議会は認めていないんだよ、今から議論するんやで。隠すとかそういうことじゃない。向こうが言っているだけです、そんなの。それも含めて議論する。

それから、例えば川島、三重西幼稚園なんていうのは、少なくとも5月21日の時点で、私立幼稚園と云々、これを働きかけていくとしかなくていないんだよ。どうなるか分からへんし、土井さん言われるとおりで、私立にはいろんな色があるわけですよ。それを一緒にして云々というの、これも議論する話ですけど、何も隠すんじゃなくて、笹岡委員が言ったのは、今、何も決まっていないから、後で決まってぎりぎりセーフで、9月7日でいろんなネットワークを使って募集者に知らしめることもできるんだらうという話ですよ。だから、決まっていないことを書くなということです。

○ 中川雅晶委員

詳細はこれから詰めていく話ですけども、でも、大枠のところの総合計画の基準はあるわけですよ。その中の基準は、それはあるかもしれないですけど、一応そういう方向性で動いてきているのは事実ですし、これは別にこの委員会だけで示されたわけじゃない、その前の委員会でも示されているわけなので、そのことは今の現の保護者の方は、もう既に分からないと言っても知っておられるというふうに僕は理解をしているので、それを1回エンターにするというのはどうなのかなという。

だから、議論はするんですよ。それは妥当かどうかという議論はしていかなきゃいけないとは思いますが、でも、この募集のタイミングは本当はもっと先でさせていただ

きたいなというふうには、それは本音のところですよ。僕も本当に苦しいですよ、これ、どうなのかなと思うと、いろいろな観点から考えると。

○ 森川 慎委員長

募集で休園云々というのを示す示さんで、これから入ってくる子供たち、保護者の方に対してのケアというのは当然配慮が必要なんですけど、私、もう一点思うのは、今在園している幼稚園の子供たちや保護者の方たちにも思いをはせていただきたいというのが一つです。当然ながら、こども園にしていくという大方針は示されて、私は、そこは全然反対するつもりはありませんけれども、例えば第2次適正化計画においては、そのこども園が、検討していくとは書かれていますけれども、今後どこに、いつできるかというところまでは示されていないというのは現実としてあります。今、在園されている子供たち、保護者の方というのは、この計画自体は何も知らされずに、今幼稚園にみえるというような状態でありますから、やはりここも、ひょっとするともう自分たちが最終学年になるかもしれないとか、そういう不安を抱えて、行き先どうなっていくんやろうというような形で毎日通ってもらっているというようなことも私は聞き及んでいるところでありますので、当然それぞれの視点が必要で、幼稚園はどうなっていくのかという議論なんですけれども、やはり、ちょっとなかなか結論は難しいですけれども、この募集に関して、豊田委員が言うように、決まっていないといえば決まっていないのかなという気がしますし、基準を示してから入ってもらおうようにするべきだということも、それは一理あるのかなと、聞いていて思いましたけれども、なかなか結論が出ないところなんですけど。

○ 村山繁生委員

その基準、示されておるのと違いますの。基準を示しておるわけですが、今回。だから、どこがこども園になるかって、そんな見通しが立っていないとか、何年先にどうなるか分からんとか、それは分からんのが当たり前で、今、何の基準もなしにあんたのところ、このままにしますよとか、ほかも休園してもう統合しますよとか、そんなこと何の基準もなくそんな議論はできないと思うんですよ。やっぱりそのために、前へ進めるために今回基準を示したわけですよ。それが今回の基準であって、示されていないというのはちょっとおかしいんじゃないのかな。

○ 豊田政典委員

示されていないというんじゃなくて、行政の考えは示されています。それが果たして適正なのかというのを含めてこれから議論するので、決まっていはいないです。議会は認めていないということを言っている。なのに、行政が、悪く言えば一方的に示した、議会に妥協するために減らした基準を、あたかも決定事項のように載せてしまうのは、先走り過ぎだということを言っている。

○ 森川 慎委員長

あと、第1次適正化計画のときは、どこそこの保育園と幼稚園が、子供たちがちょっと少ないから、ここをこども園化しますという、こういう計画だったんですけど、第2次適正化計画で示されているのは、どこそこの幼稚園がこういう人数になりますから、そこからこども園にしますということなんですよ、こども園化を考えますということなんですよ。成り立ちが私は全然違うと思っておって……。

○ 中川雅晶委員

そうじゃないです。基準を示した上で募集して、もしその基準に満たなければ休園になりますし、超えれば存続になるということです。

(発言する者あり)

○ 中川雅晶委員

でも、それを示した上で募集をするということです。それはありきじゃないですよ。

○ 森川 慎委員長

でも、過渡期において、僅かながらの人数かもしれませんが、その辺の不利益を受ける子供たちというのは出てこないですか。

○ 中川雅晶委員

だから逆に言ったら、曖昧にしたらその先どうなるんですか。

○ 豊田政典委員

中身の話をやっているとは時間、切りがないですし、村山さんや中川さんほどの委員がそこにこだわるのは、これはまた後でやりましょう、後日ね。後日しっかり、議論するのは大事ですからやりたいと思うけど、募集についてはもう行きましょうよ、正副委員長が頑張って知恵を絞ってくれたんやからさ。9月7日って期限を切って、議長にも、実際に頼みに行って、7日までに。方向性というのは分かりませんよ、どんな方向性なのか知りませんが、これから決めるんだけど、もう決めなあかんのやろ、書き方を。

○ 中川雅晶委員

議論の結果は分からんけど、この第2次適正化計画のとおりに進むという結論が出たら、直前にこの休園基準が示されるわけですね。ひょっとしたらもう応募してから、応募する前って言っているけど、直前にその判断ができるような期間もなく、僕が親やったら、申し込んだ後に決められたような感覚になる可能性もあるんです。それは何か不誠実やなって僕は思います。最悪、これが休園基準を示した上で募集しておいて、この議論の中で、その休園基準はちょっとあれじゃないのって、例えばですよ、例えばそれは休園にしないとかという判断があるかもしれないですよ。それはそれで、まだそうするほうが誠実かなって、議会としてはというふうにどうしても思ってしまうんです。

○ 土井数馬委員

さっき豊田さん言ったように、委員長と副委員長が汗をかいて、ある程度の先行きを示してくれたのであれば、私も言いましたように、ちょっと休憩して、やはり理事者とももう少し詰めて、いい案をやっぱりもう一回出してほしいなと思いますので、ちょっと休憩したらどうですか。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

それでは、休憩に入らせていただいて、正副委員長と理事者を交えてちょっと相談させてもらいながら。お昼ご飯は買いに行っていていただいて、再開は午後1時でよろしいですかね。午後1時から再開です。それぞれ皆さんまた、時間がありますので、頭の中を整理していただいて、募集なり、どうしようかというところで、できるだけそれぞれが歩み寄っ

て、妥協点を見つけられるような方向性でと私は思っていますので、その辺、ちょっとご協力、ご配慮いただければなというお願いをして、午前中の委員会は閉じさせていただきたいと思います。

休憩します。再開午後 1 時です。

12 : 08 休憩

13 : 00 再開

○ 森川 慎委員長

それでは、午前に引き続いて所管事務調査を再開させていただきたいと思います。

まず、正副委員長で相談させていただいて、まず私が園児募集について、実質的には 9 月 7 日までに議会の結論が示せばいいんじゃないかというご提案をさせていただいたんですが、ちょっと行政的な手続の問題等々が明らかになってきましたので、理事者のほうからまずご説明をしていただいて、また引き続きの議論に入っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○ 伊藤 こども未来部長

午前中、委員長のほうから、まずは広報については今までどおりの募集内容にしておいて、9 月 7 日までの園児募集が始まるまでに、議会のほうでご議論いただいた方針を示せばいいんじゃないかというふうなご意見をいただいたところなんですが、私どもといたしましては、広報で出していくということがイコール来年度の園児の募集ということで、9 月 7 日まで時間があるのは、その間に保護者さんにどこへ行くかということも含めて考えていただく時間をある程度取っているというふうな状況です。募集が始まる直前にまた違う案が示されてくるとなると余計保護者を混乱させることにもなりますので、実務的には広報で出したことが来年度イコールということになってこようかと思いますので、広報で昨年度と同様の募集でいくということは、こども園化なりのこの第 2 次適正化計画が 1 年先延ばしになるということと、イコールだというふうに捉えております。

以上です。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

そういうことでありまして、私の提案では、再来年度の園児募集の際にはそれを反映できるけれども、今現段階で結論を広報の後まで待つことになる、今年度中の反映は難しいというのが結論であります。私も、あまり議論自体とか結論を先に延ばしていく気は全然なくて、募集の方法にしてもなるべく早急に結論を出していくことが保護者の皆さんや地域の人たちへの不安を取り除く、一番の重要なところなのかなというふうに思っているところであります。あまり正副委員長で、ここではどうでしょうと投げるのはちょっとふさわしくはないかもしれないんですけども、現段階で委員会として、議会としてやっぱり結論は出すということを前提に進めていくべきなのではないかなということまでは正副委員長の間で議論して確認をさせていただいたところで、その結果として、園児募集の反映は再来年に延ばされることにはなるんですけども、遠回りやけど、結果的には近道になるのではないかなということは思いました。今のままで——無理やり、無理くりと言っているのかどうか、適切ではないかもしれませんが——進めていくと、またそれぞれの保護者の中での、先般、請願の署名活動のような、あるいはロビー活動のようなことが活発化していった余計收拾がつかなくなるのではないかなというところも一つ懸念するところであります。

正副委員長の案としては、まずは委員会で結論を出して、全員協議会へまた戻させていただいて、それを8月の末ぐらいまでには方向性を出して、次年度にしかるべき方法で園児の募集をしていくということ、それしかないのかなというところまでは2人で相談をしたところなんですけど、それは当然駄目だという意見もあると思いますので、改めてこういう状況を前提にさせていただいてご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

特に中川委員と村山委員はそのまま肅々と進めるべきやというご意見だったと思うので、ぜひその辺のところも、今のよう状況も踏まえてご意見をいただければと思いますけれども。

○ 村山繁生委員

これが昨日今日出てきたようなものなら当然もっと議論すべきだと思うけど、昨年からもう何回も示されてきて、それに沿って昨年の教育民生常任委員会でも議論されてきたことだと思います。

子供のことが大事やって委員長もおっしゃって、それはみんな一緒なんですよ。当たり前前の話で、子供のことが一番大切だからこそうやって議論をされているし、もっともってしていかなきゃならないというふうに思っています。

でも、この募集に関しての方向性は去年から出ている。それに沿ってきて私らもそう思ってきました。だから、これは、私はこの第2次適正化計画に従って募集はするべきやと思っていますけど、皆さんが1年先延ばしするんやと、そんなご意見が多いとどうしても合意は得られないと思いますけれども、この件に関しては教育民生常任委員会に付託されたわけですね。付託されて、結果を今度、全員協議会で委員長から報告してもらうわけですよ。だから、8月まで議論して結局1年先延ばしにするということは、私は本当に反対します。

ですから、ここで結論が出て、方向性を示してもらうのは当たり前のことですけれども、6月25日か28日になるか分かりませんが、全員協議会で、その場で結論を出してもらうというんだったら、それでいいと思います。

○ 森川 慎委員長

ごめんなさい、結論を出してもらうというのは。

○ 村山繁生委員

第2次適正化計画に従って、今の提案どおり広報に載せるのか、1年先延ばしにするのか、これは全員協議会のところで結論を出してもらえたらというふうに思います。

○ 森川 慎委員長

当然どういう方向になるかも含めて、来年度の園児募集に関しては、当然、全員協議会の中で結論を得てもらうつもりで私はいます。

○ 村山繁生委員

先ほど、何か8月とか言われたで、もう一度、また8月から議論をして、来年のあれに1年……。

○ 森川 慎委員長

私が言わせてもらったのは、まず、今日は来年度の園児募集をどうしようかと、広報をどうしていこうかということを経験していただく。ここは、今日中には必ず何かしらの結論、合意を得たいと思っています。その後に、第2次適正化計画自体の中身とか、足らざるものはどうやとか問題点とか、そういうところは皆さんで共有しながら、どうしていけばええかなという計画自体の在り方についての結論を出す。それを7、8月ぐらいをめどに議論をしていきたいというのが腹持ちで、来年度の園児募集に関わるところの方法なり考え方なりというのは当然ここで合意して、それを全員協議会へ上げてもらって、この議会議中に結論を出していただくというのは、それは、私は理解しております。

○ 村山繁生委員

それなら結構です。

○ 森川 慎委員長

ということはどういうことですか。

○ 村山繁生委員

いや、だから6月25日、全員協議会のところで結論を出してもらえばそれでいいです。一応、あくまで教育民生常任委員会としてはこうだったと報告してもらった上で、全員協議会の判断で結論を出してもらえばいいかなと思います。

○ 森川 慎委員長

そうすると、教育民生常任委員会としては全会一致が見られないのでそのままを報告してもらって、また全員協議会に戻すと、そういうふうにしてくれというお話ですか。

○ 村山繁生委員

はい。

○ 土井数馬委員

最初でも少し意見が出ておりましたけれども、多数決を採って決めるような場面でもないと思うんですね。いろいろな意見も今日はたくさん出ておりましたし、そのままの話

を委員長と副委員長でまとめていただいて、全員協議会に提案というか、実際の結果を報告してもらって、やはりもう一遍もんでもらったほうが、やっぱりそういうふうな振り方をしてきたような気もしておりますし、そこで結論を出してこいよというふうなやり方はなかったというような気がしますので、その辺ちょっと全員協議会のほうも尊重して、こちらの議論を一つずつ漏らさず報告していただいて、そこで協議してもらおうというのも一つの案じゃないかと思います。私は村山委員に賛成しております。意見です。

○ 中川雅晶委員

私も、休園基準を記載して募集するか、記載せずに募集するか、記載せずに募集すれば1年先送りになって、4歳児からすれば1年どころじゃなくて、何年かそういう状況というのも踏まえた上で、例えば教育民生常任委員会で採決を諮るというよりも、全員協議会に両論併記して報告いただいて、全員協議会で最終的には皆さんの決を採って、議会としての合意形成を図っていくということがいいのかなと思います。

○ 森川 慎委員長

なかなかあれですかね。村山委員にちょっとお尋ねしますが、何かこうすれば折り合えるんじゃないかというようなご提案はちょっと難しいですか、今。当然、中川委員や村山委員が言われるように、教育民生常任委員会の中で出た意見を両論併記して出していくというのは、それは一つのやり方だとは思いますが、そういうのがあり得るということは当然私も理解はするんですけども、でも、できればこの委員会の中で、皆さんがそれぞれ妥協しながら本当に一致できるようなところを確定させて、それを全員協議会へ持って行って、皆さんの確認をしていただくぐらいのところを私は希望をしているんですけども、難しいですか。もう全然、今の1年先送りになってしまうというのは当然、これは是非もありますけど、そこまでいかないとしても、こういうことであれば何かもうちょっと合意が取れるんじゃないかというような、そういうご提案は。こういうところやったら折り合えるよとか、そういうのはないですかね。難しいですか。

私、全員協議会に上げていったとしても、最終的に賛否を採って、どっちが賛成が多いでって決まっていくというのはどうなのかなって個人的には思うところなんです。時間が限られているところやで、技術的には、最終的にはそういうところということもあり得るということは理解はするんですけども、できればみんなで知恵を持ち寄って、妥協でき

るところは妥協をして、合意の上でまた次の議論へ進んでいけるような形というのを模索したいなと希望するんですが、ほかの委員のご意見をまず聞きましょうか。どうでしょうか。

○ 笹岡秀太郎委員

でも、委員長、これ、非常に難しいのと違うの、今の意見のやり取りを見ていると。もう一遍合わせをしてといっても難しい話やから、もう一度意見を出し合って、多分委員長が一番えらいと思うけど、もう一度整理に向けてアクション、それしかないのと違うの。

○ 森川 慎委員長

各委員にもう一回ちゃんと確認だけしてという話ですか。

そういうご意見が出ましたけど、いいですか。

じゃ、お一人お一人聞きましょうか。

豊田委員から行きますか。

○ 豊田政典委員

まず、教育民生常任委員会で両論出たので全員協議会に戻すというのはあまりにも芸がないし、間抜けな話だと思うので、僕は反対です。

いろいろ午前中に議論しましたが、村山委員も少しこちらに近づいてきてくれた発言もありましたから、教育民生常任委員会では、今回第2次適正化計画を書かずにいつもどおり募集するという意見が大勢であったけれども、それは全員協議会でみんなが納得する、それでいいじゃないかということになったらそれに従うと言われましたよね。そうやって書いておけばいいんじゃないという案です。もちろん課題や反対に近い意見もあるけれども、みんなで話し合って、全員協議会で、この案で行けるのであればオーケーですよと言われたので、そうやって書いておけばいい。

○ 森川 慎委員長

この案というのは。

○ 豊田政典委員

この案というのは、いつもどおり募集するということです。

○ 村山繁生委員

僕は、いつもどおり募集するという意見ではないですよ。そこを全員協議会の場ではっきり、きっちりと議会の意向を整理する。これ、責任やで、議会の。そこはきちっと全員協議会の場で判断をしてほしいということです。だから、ここではもう今、合意は得られないということですやんか。合意が得られないから全員協議会へ持っていくと芸がないというけど、これは今まででもどの委員会でも、委員会で全体会へ上げて、全体会でまた議論するというのは、これは普通のやり方やもんで。それと一緒にやもんで。だから、これはこの場で結論を、別に採決を採ってもらってもよろしいよ。それはそれで、この委員会の判断やということで、それは言ってもらってもよろしいけれども、報告の上、最終的に決めるのは全員協議会で決めてもらえればいいなということ。

○ 豊田政典委員

じゃ聞き間違いということで、話を戻すと、書いたほうがいいのかというけど、決まっていないじゃないですか。今から議論しようとしているのを何で書かなあかんの。書いたらあかんやん。今から7月、8月で議論しようというやつを、あたかも答えありきで書いたほうがいいのかというんでしょう。第2次適正化計画の基準を、4園を。ここが解せん。

○ 村山繁生委員

7月、8月に議論するというのは、あくまで今後の、こども園化するにしても、幼稚園型やら幼保連携型やら保育園型、いろいろありますやんか。そんなことで、どういったものがいいのか、そしてまた、本当に子供たちにとってどういう教育環境がいいのかということを議論していくのは、僕は幾らでも遅らせてもいいと言っているんですよ。だから、あくまで教育環境をよくするために、これは苦しいけれどもこの判断基準やと。この判断基準を今回示したわけやから、それにのっとって進めていくべきやというふうに僕は思っておるんです。

○ 豊田政典委員

その判断基準とかは休園基準としましょうか、統廃合基準。これも含めて、この委員会

が議題にしていくわけですよ。それを示したのは去年だけれども、議会で議論した時間というのは僅かで、少なくとも昨年度の教育民生常任委員会の会議録を読んでもらえばいいですけど、議論していないです、第2次適正化計画の中身。それから、基準について議論していない、正面からね。示されてから時間がたったけど、議会は別に認めたわけじゃない。両論あるというのをよりよい形にするために、村山さんが言われるとおり、よりよい姿、将来像を議論するのはこれからじゃないですか、これから。なのに、この計画の一部、一つの根幹部分である人数基準、それに当てはめた結果の4園が、今度少なかったらもう終わりだよ、こども園だよ、あるいは休園だよって書くのは、それは議論の前に結論ありきで、それは書いちゃいけないですよ。議会の否定ですよ、そんなの。だって、議長主催の会議で託されたわけやろう。公立幼稚園、私立も含めて、それから幼児教育について教育民生常任委員会に任せると、まず、将来像について。託されたばかりで、これから議論する。なのに、議論対象の一つの案ですよ、執行部のね。それを先に書いちゃったら議会否定じゃないですか。これ、過渡期なんだよ、絶対。10年、20年先の四日市市の幼児教育の分かれ目、分岐点、ここで答えを急いだり、あるいは議会議論を中途半端にやったり、あるいは子供が少なくなっ、中川委員が言われるように、一時的に少人数の園になるかもしれない。それは、僕はあえて言いますが、仕方ない。将来の幼児教育のために仕方ない犠牲者だと言うかもしれないけど、それは議会の責任でもあるし、執行部の責任でもあると僕は思っていて、今までこの件を曖昧にしてきた両方の責任ですよ。それは甘んじて批判は受けるしかないなと思いながら、今拙速に結論ありきでいったら必ず10年、20年、30年先に禍根を残すので、ここはじっくりとやるべきだというのは私の意見で、先に答えありきで結論を急ぐのはよくないと、それだけです。

○ 森川 慎委員長

村山委員、どうですか。

○ 村山繁生委員

もう何遍も言っているからいいです。

○ 中川雅晶委員

これも本当、今、豊田委員言われたように、議会の責任でもあるんですよ。行政もそう

ですけど、もっと早くこの結論を出していかなきゃいけなかった。でも、取りあえず総合計画の中に大まかな方向性を示された中で、それを第2次適正化計画に落として進めていこうと。ただ、この計画の中身をずっと読むと、そんなに決まっていることはないんですよ。明確に決まっているのは、休園基準だけが明確にされているのかなと思って、3歳児の受入れについても検討するとなっているんですけど、じゃ、どこからどういう形で進めるかというのは明確にされていませんし、認定こども園もどんな形の認定こども園かというのが書かれているわけではないので、明らかにしていかなきゃいけない部分は、僕は多いのかなと思います。

ただ、総合計画に示されたように、やっぱり一定の規模で幼児教育をしていくということとは決められているわけですよ。総合計画に位置づけられているので、それをほごにするというのはちょっとどうかなと思いますし、じゃ、それを2年にわたって、犠牲者やというか、かわいそうやったねで済まされるということが、僕にとってはどうしても許せないというか、僕の中でそれはちょっと違うんじゃないかなって。やるのであれば、なるべく短期にしっかりと中身を示すということが僕らに求められていることなので、方向性、そういう人数が少なくなったところの公立幼稚園はやっぱり休園をして、次の段階に行きますよというのは指し示さなければならないので、そこはなかなか外せないかなと思います。

でも、言われたように、どうしてもと言うのであれば、議会として結論を出さなきゃいけないので、両論併記の中で、これ、全員協議会とはいえ合意を諮っていかなくちゃいけないというところはあると思うので、それはもう全員協議会で示されたほうがというか、結論出したほうがいいのではないかなと思います。

○ 森川 慎委員長

ほかにいかがでしょうか。

○ 笹岡秀太郎委員

まとまらんならば中川さん案に近いところで、落とさないとしようがないのかなという気がするんですけど、もう少し時間をください。ゆっくり考えますから。

○ 森川 慎委員長

どうでしょうか。

○ 豊田政典委員

6月25日が全員協議会ですか。

○ 森川 慎委員長

いや、そこは決まっていらないんですよね。

決まっておるの。

事務局、お願いします。

○ 渡邊議会事務局主事

事務局、渡邊ですけれども、昨日の代表者会議において、6月25日には予算常任委員会全体会、あるいは決算常任委員会全体会がありますので、その日に予算、あるいは決算の全体会が終われば、それ終了後に全員協議会を、そこで予算あるいは決算常任委員会全体会が終わらず、6月28日の予備日を使うのであれば、28日の予算、決算常任委員会全体会が終わった後、そこに全員協議会を設定するということは合意がなされています。

以上です。

○ 豊田政典委員

それは何のための、何をする全員協議会なの。報告を受けていないもんで。

○ 森川 慎委員長

5月31日の全員協議会で言われたのは、どこの会議体でするんやというような議論の中で、それは教育民生常任委員会でしょうというような形で、それを承った形で教育民生常任委員会として何かしらの、その段階では第2次適正化計画の中身自体の結論もというようなニュアンスで投げられていたと思うんですけど、計画自体の取扱いとか、そういう結論を求められていたと思うんですけど、そういうのをひっくるめて、改めて教育民生常任委員会の議論の経過なり、結果を受けて、また全員協議会のところへ戻してもらって、そこで全議員の中で確認をされて、その方向で議会としての意思を固めたいという、こういう整理だったと思っています。議長の言われたのは。

○ 豊田政典委員

6月25日にとにかくやるもので、その日にとったんですけど、無理ですね。今日決まらないと。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

そうです。

ちょっと合意は難しそうかなと思って、委員長の力不足もあって、本来であれば全員一致で同じ方向を向いてというような合意を目指していたんですけども、今のそれぞれの委員さんの意見、両論を併記しながら、こういう議論が、経過があったと、こういう意見があったということを明確に示して全員協議会へ戻すと、こういう方向なのかなと、今は皆さんの意見を聞いて思っているところですけども、どうでしょうか。

○ 中川雅晶委員

全員協議会で決められたことについては、それは議会の意思というか合意形成を図られたということなので、それには肅々と従っていくということ。

それに基づいてここはまた議論をしていくと、深めていくと。取りあえずは、募集に当たってはそういう結論をいただければなと思います。ここですというのはちょっとなかなか、先ほども言ったように、結論を出すのであれば全員協議会で結論を出していただかないかなと、そういう方向でやっていただければいいんじゃないかな。

○ 森川 慎委員長

募集に関しての結論は、教育民生常任委員会ではこういう話でしたけど、最終的には全員協議会の場で確認して、最終的には決を採ることになるかもしれないけど、それで議会としての意思を示してくれと。その後、また第2次適正化計画の中身の議論をしていくということは確認をされていますので、引き続きその後、私たちが日を設けて議論を続けていくと、そういうような形でと。

○ 中川雅晶委員

おっしゃったとおり、第2次適正化計画のもっと具体的な中身について、ここでやっぱり議論させていただきたいなというふうに思います。

○ 森川 慎委員長

中川委員からそういう、私の意見に賛意をいただいたかなと思っていますけれども、豊田委員、どうでしょうか。反論があれば。

○ 豊田政典委員

一つ確認なんですけど、理事者に。9月30日に募集締切りとなっていますやん、毎年、大体ね。それをもっと遅くした場合にはどういう支障があるの。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

これ、例年、保育園、公立幼稚園、募集時期は同じくしております。それぞれこの時期にこの募集があるという前提で、各保護者の方々は園の決定等の作業をされていると思います。これはあくまで推測、個人的な意見の部分もあるんですけども、中には幼稚園を考えている方、あるいは保育園を考える方、たくさんの選択肢がある中で、やはり募集期としては、公立園につきましては同時期にしていきたいと考えております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

だから、遅らせたらどういう支障が考えられるの。

○ 大西保育幼稚園課長

例えば、公立幼稚園を希望する方が、公立幼稚園の募集が遅くなった段階で、保育園と幼稚園のいずれかを選択するといった場合に募集締切り等を考慮しますと、意にかなわなかった募集の状況になるのかなと考えております。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

もうちょっと具体的に。例えばどういうことが想定されるのか、具体的に何か、こういう希望をされていて園児募集に応えてきたけどとか、そういうもうちょっとイメージしやすいような説明をお願いしたいと思うんですが。

○ 中村保育幼稚園課課付主幹兼施設運営係長

保育幼稚園課、中村です。お忙しいところ、よろしくお願いいたします。

スケジュールにつきまして豊田委員のほうからご質問がありましたが、現在の9月7日から30日までの募集期間でというスケジュールで、例えば1か月遅らせたかどうかということだと思うんですが、現在の募集期間で、その後、一旦9月30日で締め切りまして、各園から書類を全部集約しまして、その後、11月に入ったら我々は各園に全て出向いて、面接とかをして、またその後で調整をして、結果を保護者の方に知らせるというスケジュールが組まれておりますので、保護者の方に結果が遅れるというのは、やっぱりちょっと事務的にもなかなか支障が生じるものかなというふうに担当としては思います。

以上です。

○ 森川 慎委員長

豊田委員、どうですか。

○ 豊田政典委員

分からん。何を言うておるか分からん。

○ 森川 慎委員長

遅れることによって、どこにどういうデメリットが出てくるかとか、保護者なのか行政なのか、その辺とかを明確に分かりやすくご説明いただけますか。

○ 中村保育幼稚園課課付主幹兼施設運営係長

保育幼稚園課、中村です。

例えば、保護者の方にご案内する通知を、今だと第1次募集の結果を2月の上旬に通知させていただいております。それでも、もしそこが1か月遅れますと、3月になってから

募集の結果の通知となると、なかなか保護者の方、今でももっと早くならないかということも意見としては伺っていますので、やはり3月になってから結果が行くというのは、保護者の方に迷惑がかかるのかなというふうに思われます。

以上です。

○ 森川 慎委員長

今のは幼稚園の話、保育園の話、両方とということですか。

○ 中村保育幼稚園課課付主幹兼施設運営係長

はい。

○ 森川 慎委員長

豊田委員が言われたのは、幼稚園の募集だけですか。

○ 豊田政典委員

幼稚園の話をしているんですけど、幼稚園だけもっと締切りを遅くしたら、支障がない形で通知も含めて進んでいくんじゃないのかなって。中身のことは分かりませんから、事務のことは、言うているんですが、無理ですか。

○ 森川 慎委員長

保育園はそのままのスケジュールでの募集、幼稚園に関しては一月か、ちょっと後ろへずらすという、そういう想定でのご質問ですね。どうですか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

今、豊田委員からいただいた想定は、誠に申し訳ないんですけども、私ども全くというほど想定しないところでございまして、やはり大変申し訳ない、これ、通年どおりの募集期においての、決定までの園のスケジュールもそうですし、保護者に募集の案内をしていただく、要は入所申請に備えていただく、どの園を選択するのかといったところも踏まえてのスケジュールでございまして、そういう例年のスケジュールの中で公立幼稚園の

1号認定のお子さんだけの募集を遅らすということは、今申し上げた中で想定外のところで、何がと具体的にはちょっと申し上げにくい部分がございますけれども、担当が申し上げましたようなところで事務的には難しいかなと思っております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

だから、なぜこんなことを言うかというのは今までの流れを聞いてもらえば分かるように、特例ですよ、今年。特例だとして、議会の議論も行われていない。一方で、保護者に例年にはないような、マイナスにならないようにしたらどういう方法があるだろうというところから尋ねているわけですよ。大西課長や中村係長の答えでは、例年こうするので、それは想定外で考えたことがない、事務的にも難しいんじゃないかではよく分からない。お互いに知恵を絞り合って、よりよい方策を考えなければいけない局面なんです、今、この会議がね。それは不可能なのか可能なのかということを問うているのであって、中身は分かりませんよ。保育幼稚園課の事務作業が面接だとか言われて、面接ってよく分からないし、周知が2月というのもちょっと驚きなんですけど、9月末で終わってね。そこを何とか時間を縮めて、募集期間を、9月30日のやつを12月31日にできないかという提案をしているの、2月に通知できるように。できない根拠が分からないので。それは豊田さん、こういう事務があるし、こういう手続が要るので絶対無理だというのであれば、この話はもう終わります。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

公立幼稚園の園児募集のところで、豊田委員、例えば12月31日までというお話がございましたけれども、要は園児募集を決定するにおいて、申請をいただいて、あと、お子さんの状況を確認する。保育園については、お子さんの状況については入所面接といったところを行った上で各園の選考を行って、これ、先ほど豊田委員おっしゃいましたように、2月の下旬といったところでのスケジュールでございますので、その辺りのスケジュールを追っていく中で、例年につきましては9月の募集とさせてもらっておるところでございます。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

保育園と幼稚園の、ちょっと今お話も混同していたのかなと思うんですけど、豊田委員が言っているのは幼稚園だけの話ですよね。幼稚園も面接があるの。

○ 大西保育幼稚園課長

幼稚園の入園につきましても、申請をいただいた後、園に来ていただいて聞き取りを行っております。

○ 豊田政典委員

幼稚園も入園希望者全員、保護者と子供の面接を行うの。

○ 中村保育幼稚園課課付主幹兼施設運営係長

公立幼稚園さんのほうの面接は、私、ちょっと携わったことがないですもんで、申し訳ございません。ある程度具体的なことが言えなくて申し訳ございません。

○ 森川 慎委員長

そうしたら、今の太西課長が言われたのは、面接がある云々というのもちょっと分からんということですか、今の。

○ 中村保育幼稚園課課付主幹兼施設運営係長

園に申請書を持っていくので――直接私は面接するわけじゃないのであれなんですけれども――幼稚園のほうで書類を預かって、そこで聞き取りはしているはずでございます。

○ 豊田政典委員

深くはいきませんが、申し込むときに聞き取りをするのやろう、当然。それだけの話で何で2月になるの。それを何とか縮められないかという提案をするわけ。例年どうこうは聞いていない。

○ 森川 慎委員長

特例ということで。

○ 豊田政典委員

そうすれば議会にも間に合うじゃないですか。

○ 森川 慎委員長

そういうことは可能かどうかということでご質問をいただいています。

○ 豊田政典委員

分かる人、答えてよ。

○ 森川 慎委員長

休憩しましょうか。確認が要るでしょう。

豊田委員、いいですか。

○ 豊田政典委員

確認って何や。知っているやん、そんなこと。

○ 森川 慎委員長

本来であれば保育幼稚園課なので知っているはずですけど。

○ 中川雅晶委員

中身は分かりませんが、これ、例えば私立の幼稚園は多分同じ時期、9月とかに入園の申込みをしなきゃいけないんですよ。その時期とほぼ重なっているのかなと思うんですよ。そうじゃないんですか。だから、となると、私立にするのか、公立に行くのかというのも選択していかなくちゃいけないので、そこが極端にずれるとなると、選択がどうなのかなという。

○ 森川 慎委員長

ただ、私立は、いわゆるプレ幼稚園みたいな、2歳から入っていないと入れないという

幼稚園が結構あるのかなと私は認識をしているので、その辺の最終的には手続が何月かというのはちょっと定かではないですけど。

○ 中川雅晶委員

それは、プレに行っていなかったら受けられないと、そういうわけではないと思います。

○ 森川 慎委員長

いやいや。人気があるようなところは、それを受けていないと入れないというのが実態としてあります。

○ 土井数馬委員

もう少し確かな情報でやり取りしてもらえんかな。多分そう思うとか、そんなもん何にもならへんやんか。

○ 森川 慎委員長

すみません。申し訳ありません。

ちょっと1回、また休憩で申し訳ないですが、こども未来部の中でちょっと確認をしていただいて、豊田委員の先ほどの投げかけに応えられるような状況にした後、再開させていただきます。

そうしたら一回ちょっと退席いただいて、委員会内で決しなければならないことについて確認させてもらいます。また呼びに伺いますので。

中継は一旦止めていただいて、事務的な所管事務調査のところとかの議論をまず先にさせていただきますと思います。一回止めてください。

豊田委員のご提案を受けさせていただきます、進めさせていただきます。

まず、8月定例会の議会報告会、シティ・ミーティングについてです。

日程については、議会運営委員会で示された日程、11月1日月曜日としたいと思います。が、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

確認いただきまして、ありがとうございます。

8月定例会議会の議会報告会、シティ・ミーティングを11月1日、議運で確認をされていますので、この確認を改めて委員会でさせていただきました。

次に、その議会報告会、開催場所につきましては、これは2月定例会議会で中止をされたんですかね、そのとき、四郷地区市民センター2階大会議室で実施するというのが議運で確認をされておりますので、連絡をさせていただきます。11月1日は四郷地区市民センターですということです。

○ 土井数馬委員

コロナが収束するというか、収まっておらんで、まだこれは変更はありますね。

○ 森川 慎委員長

あると思います。それは議運でまた議論されると思います。

なお、6月定例会議会の議会報告会、シティ・ミーティングについては、7月6日の火曜日18時30分から、総合会館8階、視聴覚室で行われますが、こちらは正副議長と4常任委員長、それから予算常任委員長が出席することになっています。ほかの議員さんについては任意となっておりますので、ご参加の意思のある方はご参加をいただきますというお願いであります。

次の項に行きます。

任期中の共通調査テーマについてです。

昨日の冒頭にご連絡させていただきましたが、任期、この2年間を通じての調査テーマを考えていく必要がありますので、ご提案がありましたらご発言をいただきたいと思います。

○ 中川雅晶委員

本年はGIGAスクール構想の元年でもあり、このGIGAスクール構想は、やっぱり1回や2回の所管事務調査で終わることじゃないと思いますので、ここは任期中のテーマとして、いろんな角度から本市のGIGAスクール構想について、所管事務調査をしていただければなというふうに思います。

○ 森川 慎委員長

公立小中学校のG I G Aスクール構想について、長期的なテーマで取り組むべしというご提案を中川委員からいただきました。

他にいかがですか。その辺についてもほかの提案があれば。

○ 豊田政典委員

小中学校の課題全般について、G I G Aスクール構想も含めて、じっくり皆さんと1年、2年やってみたいなと思っております。小中学校諸課題、現状について、例えばずっと放り出されている得意の学校規模等適正化計画、これはどうなっておるのか、どうあるべきかというのは、全体構想みたいなやつが栗田さんのときに示されたままで何もやられていない。なおざりになっている。ほかにも、今まで教育民生常任委員会でもいろいろ断面的に議論されて、不登校の問題であるとか、それから学校の授業は今どうなっているのかというのをぜひ見てみたいと思うし、アクティブラーニングみたいな取組も学習指導要領で変わってきているので、授業の様子も見てみたいし、それから、この前、中日新聞に載っていた給食費の公費化というのも少し探してみたら、今まさに議論を始めようというところらしいんですよ、教育委員会。給食費問題、材料調達の流れから給食協会とかいう、よく分からない団体がやっているのもそれでいいのかとか、あるいはもっとそういった金関係だと、物品や修学旅行の契約とかというところも一度はつきりしておきたいなということ。それから、個人的には運動会、卒業式の在り方に違和感があり、部活の問題もありますね、中学校。部活の指導員はどうなっているのか。

あらゆる小中学校に関するいろんな大きな問題、小さな問題あると思うんです。G I G Aスクール構想も含めて、この将来像、一度全委員で疑問点とか課題とかそういうのを出し合って整理した上で、少なくとも1年間、一緒に研究したいなというのが私が10日間考えた結論です。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

取りあえず、ほかに提案がありましたら。

○ 中川雅晶委員

これは1年間じゃなくてもいいと思うんですけど、こんなコロナ禍の時期なので、市の相談体制、僕は重層的相談体制整備が必要やなと思うんですけど、この間も本会議でいろいろ、3層構造のことが複数の議員から議題に上がっていましたので、もう一回、地域包括支援センター、在宅介護支援センターを含めた機能強化であつたりとかという部分をちょっと掘り下げてもいいのかなというふうに思います。

○ 森川 慎委員長

相談体制というのは福祉的なところの相談ですか。

○ 中川雅晶委員

重層的支援体制整備は国のほうで法律、これは地方自治体に対しては努力義務なのでやらないという選択肢もないわけではないですけど、それで許されるのかというところもあつて、相談機能がちゃんと機能しているのかどうなのかというのと、3層構造はまた別です。これ、高齢者、微妙に関連しますけど、こちらは縦分けて、3層構造がちゃんと機能しているのかどうなのか、地域包括支援センターや在宅介護支援センターの在り方というのがちゃんとやっているのか、この辺がまた決算の審議と連動したりするので。

○ 森川 慎委員長

中川委員から二つ提案があつたので。

○ 笹岡秀太郎委員

国体までに都市・環境常任委員会に移った事業、これは、恐らくハード整備とかそういう面で委員会の所管が変わっていったようなということですよね。そうすると、国体が終わるとまた戻ってくる可能性もあるの。そういうところでいうと、そういうところの議論もどこかでしておかんとどうなんですかという思いがあります。

○ 森川 慎委員長

それはどう判断したらいいか。今はないということを事務局から。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

そういうことで、ほかに提案自体はおありでしょうか。

よろしいですか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

今、中川委員からはG I G Aスクール構想についてということと、あと、地域包括ケア等々の市としての相談の体制であるとか、3層構造の問題とか、こういったところをどうかということで二つのご提案をいただきました。それと、豊田委員からは、小中学校の諸課題、適正化であるとか不登校の問題であるとかもろもろ、卒業式のこととかもいろいろあって、そういうところも確認を1回してみたいというご提案で、笹岡委員からはスポーツの関係、教育民生常任委員会に戻ってくるという前提の下、今どういうことができるだろうという議論を進めていく必要があるんじゃないかというようなご提案でありました。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

それはあるかもしれません。そういう意味では、笹岡委員、ちょっとこれだけはおめんなさい。確かに今の状況で議論を進めていくのはちょっと難しいかなという。すみません。

豊田委員の小中学校の諸課題という中には、まずG I G Aスクール構想というのを盛り込めるのかなとは思いますが、どうですか、中川委員。それか、もっとG I G Aスクール構想だけを1年間、2年間やりましょうと、そういう提案ですか。

○ 中川雅晶委員

豊田委員のはちょっと広過ぎるかなというのがあって、2年では済まない話だとも思うんですが。

○ 森川 慎委員長

豊田委員、もうちょっと絞るとかというのは大丈夫ですね。後からまた調整して。

○ 豊田政典委員

いろいろ言いましたけど、みんなで出し合って、それを選べばいいやんか。

○ 森川 慎委員長

何を選ぶ。

○ 豊田政典委員

選択すればいい。

○ 森川 慎委員長

学校の諸課題の中でこういうのがある、こういうのがあるって出して、またそこからピックアップして幾つかを選べばいいということですね。

○ 豊田政典委員

そんな感じで。

○ 森川 慎委員長

そんな感じで、その中の一つにG I G Aスクール構想を含めてはどうですか。

○ 豊田政典委員

もうちょっと言えば、教育長も替わることなので、新しい教育長の考えも聞きたいし、全部は広過ぎてできへんのやけど、みんなで合意したやつをやっていけばいいんじゃないかということ。

○ 森川 慎委員長

当然その中にはG I G Aスクールも入ってくる。そういうことやってら、中川委員、そこは折り合ってもらえますかね。

そうしたら、学校の件は今の整理のように、小中学校の諸課題全般ということで取り扱いながら、その中から、まずはそれぞれの委員さんから、こういうこと、こういうことというような提案を受けながら、そこから個別のテーマで議論をしていこうというのが一つ。

いいですか。豊田委員がちょっと怖い目で見ているんですが、いいですかね。

それと、中川委員の相談体制の充実であるとか、現状どうなっているのかという、そういう調査というようなことで二つ上がってきました。

○ 村山繁生委員

豊田さんの小中学校の諸課題という大きな項目、その中でまた豊田さんがいろんな項目を提案されると思うので、その中で一つなり二つなり選んで、そのうちの一つは中川さんのGIGAスクール構想、その後、幾つか、一つか二つか分かりませんが、その中で項目を幾つか挙げてもらえるんでしょうね、豊田さんのほうから。その中から皆さん、幾つか決めたらいいんじゃないですか。

○ 森川 慎委員長

それはそれで今確認したいと思って。それとプラス、中川委員からもう一つ提案があったのが、福祉的なところでの市の相談体制であるとか地域包括ケアの在り方ということで、今二つ、これ、あるかなと思って、こういう例はどうやって取り扱えるかなというところなんですけど。

○ 豊田政典委員

ちょっと話を戻すと、僕も提案しますが、みんなで出し合って、村山さんは村山さんでこういうことやる。学校、小学校、中学校に関わるやつを出し合って、整理して、個別とかじゃなく分野別に整理する。それを全部できへんから、今年はこれかこれをやろうかという作業をしてほしいなと。

中川さんの相談のやつは、事項書を見ていると、今の話は15番じゃないかと思うんですよ。任期中の共通調査テーマというやつね、僕の案ではね。1年やったらどうだと。16番のやつが中川さんのやつに当てはまるんじゃないの。違うの。

○ 森川 慎委員長

いや、一応今は年間のテーマを募りました。

中川委員もその中で、先ほどの相談体制云々のところは提案いただいたのかなと私は認識していますし、ある程度合意に至ったのかなと思います。大項目として、小中学校の諸課題についてというようなことを掲げさせてもらって、今後の最初のときにどういうのをしていこうかというようなところを募りながら、一つ、二つ、三つぐらいをピックアップしながら議論を深めていくと、そんな形で年間テーマを設定させてもらってよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

中川委員の言われたところは、どこかのタイミングで、休会中の所管事務調査などで取り上げていくということで確認をさせていただきましたので、そのように取り計らってまいりますと思いますので、よろしくお願いします。

16番の休会中の所管事務調査、今、年間テーマは決めさせていただいたんですが、この公立幼稚園の第2次適正化計画についての所管事務調査をまずは進めていかなければならないので、日程をまず確認させていただいて、確保させていただきたいというようなことで、今お手元に、2か月で5回か6回ということで提案をさせていただくんですが、ちょっと先ほどの議論の最後で、またこれを諮ろうかと思っていたんですけれども、こういう段階になりましたので進めさせてもらいますけど、こういう形で日程を確保させてもらっていいでしょうか。当然、議論の段階でもっと早く終わるとかということはある得て、もうこれいいよねということになるかもしれへんし、それか、もう少し簡単な確認があつて、どこかでもう一回必要やねということが出てくるかもしれませんが、現状の段階で、議会に行って確認させていただいて、示させていただいた日程がこのようになっています。

どうでしょう。多過ぎるとか、もうちょっとこうせいとかというのがありましたら。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

そうです。必ずしも全部消化するというつもりではなくて、とにかく皆さんの予定は空

けておいてもらわんことには議論しようかというところもできないので、こんなような提案をさせてもらっているんですが。

○ 村山繁生委員

所管事務調査の一つとして、今後の在り方というのをやはり議論するのは、この与えられた場じゃないですか。こども園の園長さん、幾つか……。

○ 森川 慎委員長

ちょっと待ってください。

まず、今、日程を決めさせてもらって、こっちの議論が終わってからその辺の話は入っていこうかなと思ったんですが、今もうさせてもらってよろしいですかね。どんな議論の進め方をしていこうかという話ね。

そうしたら、村山委員のお考えとか、こういう議論したいとか……。

○ 村山繁生委員

一応日程はこれだけ確保することは分かりましたので、そのうちの1回を、こども園の園長さんに来てもらって、どういうふうなことをやっていて、どういったメリットがあるかを聞ければ、いろいろな課題を把握するためにもいいかなというふうに思います。だから、現状について皆さんも、私も含めてあんまり知らないと思うんですよ。今後の在り方について議論するにはそれも大事なかなというふうに思うんですけど。

○ 森川 慎委員長

当然ながら、いろんな方に来てもらうということは私も考えているところですので、今言ってもらったのは、こども園の園長先生、幼稚園じゃなくて。全部合わせてか。

○ 村山繁生委員

それも任せますよ。

○ 森川 慎委員長

例えば、こども園を直接見に行くとか、そこでの議論の場とか、そういうのもあり得る

のかなと思う。

○ 村山繁生委員

見に行っても、ずっと1日中見ておるのやったらいいけど、僅か30分や1時間見ても分からへんと思うんですよ。

○ 森川 慎委員長

園長先生、こども園や幼稚園の先生方もその辺のバランスを取りながらということでもらう。

○ 土井数馬委員

こども園のことでしたら、さっきも言いましたけど、一度理事者のほうで総括をさせたほうがいいと思うもので、見に行く前に資料等で一度、平成29年からやってきたことを詳しく総括するのはなかなか難しいかも分かりませんが、ある程度の総括をさせて、やはり確認していくべきだろうと思います。それだけ、また正副委員長のほうで調整してお願いしたいと思います。

○ 森川 慎委員長

こども園の総括なり確認した後に園長先生たちに来てもらおうと、そういう順番がいいんじゃないかというご提案で。

ほかにどうでしょうか。こういうことを調べたいとか、こんな方々を呼びたいとか、視察もあり得るでしょうし、ご提案があれば。こういう研究とか、こういう議論をするべきじゃないかというようなこと、今の段階で皆さんの頭の中にあることをご提案いただければと思うんですけども、その他どうでしょう。

○ 中川雅晶委員

保護者の方とか。

○ 森川 慎委員長

保護者ってなると、PTAの会長さんとか、そういう方たちですかね。なかなか議会ま

で出てこれるか分かりませんが、意見としてそういうご提案をいただきました。

これも検討させていただきます。

その他どうでしょう。

○ 豊田政典委員

方法じゃないんですけど、テーマとして、3歳児保育について、一度歴史からじっくり議論したいなど。

○ 森川 慎委員長

3歳児保育のこれまでであらまし、3歳児保育の考え方というか、事実ですか。今までの歴史みたいなのところの確認、説明ですか。

○ 豊田政典委員

今までできない理由を理事者は言っているので、それについて確認しながら、今現在どう捉えるかということと、それから、やるべきか、やらないべきかまでは言わないけど、やった場合など、皆で議論したいなということです。メリット、デメリットについて。

○ 森川 慎委員長

公立幼稚園での3歳児保育なりこども園も含めて、教育認定の子供たち、3歳児の保育をどうしようかというようなことを総論的に議論する場をとということですね。

ほかにいかがでしょう。

○ 中川雅晶委員

有識者ではないですけど、本市の子供・子育て、就学前教育・保育の観点から専門的な意見をいただくとなれば、四日市市の子ども・子育て会議の座長を務められておられる三重大の先生とか。

○ 森川 慎委員長

それは第1次適正化計画策定のときの検討会の座長ということですね。

○ 中川雅晶委員

その方に限定しなくてもいいんですけど、そういう学識的なところからも意見をもらうというのも一つかなって。

○ 豊田政典委員

今日も資料が出てきていますが、園長会と執行部の話合いを見てみたい。

○ 森川 慎委員長

園長会と執行部の話合いというのはどういうことですか。この目の前で話をするということですか。

○ 豊田政典委員

そうです。

○ 森川 慎委員長

興味はありますが、上司と部下の関係の中で、こういう場で果たして議論できるかなという懸念を私は持ちましたが。

その他どうですか。こういうところをもうちょっと議論の俎上に上げるべきだとか。大体出たのかなと思うんですが、何か議論の論点、観点があれば。

○ 豊田政典委員

中川さんの保護者云々のところからうまく分かればいいんですけど、私立は2歳のプレ幼稚園からという話があるじゃないですか。一方で、公立を選ぶ人が、4歳からなんですけど、私立に行かない、行けない理由とか、課題ね。私立でカバーできているからいいじゃないかという説もあるんだけど、そうじゃないという人もいると思うので、その辺の実態が知りたいんです。分かりやすいところでは外国人や障害者の話、それだけじゃないと思うんだよね。だから、適正化計画の中で、人数が減ってきたら一緒にするしかないじゃん、人数的にねという議論がある。こども園にするのに公立だけで無理なら私立に任せればいいという。それでいいのかということが議論の本質だと思うんですよ。だからその実態を知りたい。間接的に聞いてはいるけれども、果たしてどうなのかなと、保護者目線

で。それを具体的にどうやればいいのかよく分からないですけど、そこは議会のマル、バツ、賛否分かれるところの認識の違いの大きなところだと僕は思っているんです。僕の聞いている話が正しいかどうか分からない。直接聞いているわけじゃないので。

一方で、子供の数が少ないのはいけないから一緒にするのは当たり前、それでいいのかなというところも感じる。村山さんと俺とは違うんだね、それ。そこが解明できないところの話は終わらない。

もう一つは、こども園。こども園が果たして幼児教育を担うに足るような形になっているかどうか、この2点を僕は思っている。だから方法論を正副委員長で考えてください。

○ 森川 慎委員長

考えます。

ほかにいかがでしょう。

当然、この所管事務調査の間でこういう調査が必要やということは当然出てくると思っていますけれども、現状のところ、今思いつくのはその程度ですかね。

よろしいですか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

では、この日程をまず確保していただくことと、併せてもう一回言っておきましょうか。

まず、これまで5年ぐらい実施してきたこども園の総括が必要だと。それを聞いた後、こども園の園長先生であるとか、ここには公立幼稚園の先生方も含まれるのかもしれませんが、参考人という形で来ていただいて意見を聞くというようなことが一つ。公立幼稚園、こども園で3歳児の保育の受入れに関するような総論的な議論を、歴史的な背景も踏まえて、一度みんなで確認、議論する必要があるだろうというようなご提案が一つ。そして、私立ではなくて公立幼稚園を選んでいる保護者の考えなり、理由というのはどういったところなのかというところを探りたいという提案が一つ。こども園自体のお話を、豊田さんが最後にも言われたので、この辺は総括に含まれますね。あと、参考人として呼ぶというような形で、保護者の方であるとか、専門的な知見を持つ大学教授というような方であるとか、在り方検討会の座長さんのような方で、学問的な、アカデミックなところ

での見解を述べられるような方を参考人と呼んではどうかというご提案をいただいたと思っています。

大体そんなところかなと思いますけれども、よろしいですかね。

まず、そういうことで、この日程の中でどこまでかなえられるかどうかというのはちょっと約束、今のところではできないんですけれども、なるべくやはりこれも議論がいろんな方面から促進されるよう検討はさせていただきたいと思いますので、そのおつもりでよろしく願いをします。

8月19日なんですけど、午前10時もしくは午後1時30分という形で、2案提案されていますもんで、これ、どちらかにしておいてほしいというのが事務局のお願いなんですけど、どうですか。午前10時、今の段階で都合の悪い方はみえますか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

そうしたら、19日は午前10時からで確定させてもらって、当然、村山委員が言われたように、議論の中ではこれを消化しないということもあり得ますので、そういうことだけご了承くださいたいと思います。

また、この所管事務調査を行うに当たって、7月7日からスタートでいいのかどうかというような確認と、初回はどういうことをするかだけは決めておいてほしいということなんですけど、7日でよろしいですか。まず日程ですけど。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

それでは7月7日からスタートで。

その後、ここでまず、何を取り扱っていきましょうかという話なんですけど、今の段階で、あんまり参考人を呼ぶというのはちょっと時間的にも難しいかなというようなところもありますもんで、理事者との議論と我々の議員間討議をまずやっていきたいと思うんですけど、3歳児保育からにしますか。こども園にしますか。ご提案の中ではその二つが理事者と我々だけで取り扱えるかなと思うんですけど。

○ 豊田政典委員

それもいいんですけど、第2次適正化計画全般に対する疑問があるんです。疑問や確認したいことを、出し合ったらどうですか。

○ 森川 慎委員長

議論全体にわたって、まず第2次適正化計画の問題点を出し合おうというようなご提案ですが、どうでしょう。それプラスこども園で行きましようか。そういう形で1時間ずつぐらいのイメージで。

○ 中川雅晶委員

どこに焦点を当てるというか、必ず第2次適正化計画は課題になるわけですから、まずはこども園からスタートしていてもいいんじゃないですか。認定こども園からやって、適正化計画と連動させてもいいんじゃないですか。わざわざもう一回適正化計画のいろいろなところをやるということですよ、今の話は。

○ 森川 慎委員長

いろいろやるんじゃなくて、第2次適正化計画のところの課題とか、解決しておくべきとかというのをまず全員で上げていこうよというご提案かなと思うんですけど。それ自体を取り扱うのではなくて。

○ 中川雅晶委員

それは大前提ですよ。

だから問題なっているんでしょう、今。

○ 森川 慎委員長

そうです。

○ 豊田政典委員

だから、理事者の考え方が解せないところが大いにあるので、それをただしておかない

と、我々の議論も始まらない部分があるんです。

○ 中川雅晶委員

豊田さんが言うのは、この第2次適正化計画をもう一回おさらいしたいということですか。

○ 豊田政典委員

おさらいじゃなくて、何度も質問はしているけど答えが返ってきていない点があるので、それを確認したいと。具体的には市長に来てほしいなと思っています。

○ 森川 慎委員長

市長を呼べるかどうかはちょっと保留させていただいて、第2次適正化計画の課題、理事者に直接聞くということですか。事実確認みたいなのところの議論をまずしていこうと、そういうことですかね。

そうしたら、第1回目は、第2次適正化計画の、それぞれ委員さんが思われるような課題のあぶり出しで、その中で理事者に問えるところは、確認をしていくという作業と、併せてこれまで四日市市で行われてきたこども園行政に対する総括的な議論という、この2本立てで、まず第1回目は行わせていただきたいと思いますけれども、それでよろしいですか。その中でもこども園の課題が浮き上がってくるだろうなと思いますので、またそれに沿って、有識者であるとか保護者に来ていただきつつ、議論を深めていってという形かなと思うんですが、そういうことで、取りあえずは、1回目はよろしいですか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

では、そのように取り計らってまいりますので、7月7日午後1時30分だけ予定をして……。

○ 日置記平委員

委員長、こども園のところ、その中のどこかでまた市長にお出ましをいただくこともあ

り得るということを入れておいてください。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

市長を呼ぶ呼ばんということも念頭にということで承りました。

以上かな、これでよろしいか、決めることは。分かりました。

では、そのように、取りあえず休会中の所管事務調査を進めさせていただきます。

最後の項、17番なんですけれども、管内視察、行政視察についてということで、当然コロナがあって、時期はまだ明確に何日ということとは言えないんですけれども、この辺りも、時期とか視察先テーマというのは当然年間テーマに沿ったものにはなると思うんですけど、今の段階で案があれば賜りたいと思うんですが。

○ 豊田政典委員

毎回、所属委員会で言いますけど、時期を先に決めるのはおかしい。必要性が出てきたときに行けばいいし、相手もあるんだけど、管内視察もしかり、1回じゃなくてもいい。3回、4回行けばいい、必要なら。なければ行かなきゃいい。だから、最初に決めようという事務局の置き方がおかしい。

○ 森川 慎委員長

すみません、分かりました。

そういうご意見ですけれども、豊田委員のおっしゃることはもっともかなと、委員長としても今反省をしましたので、そんな形でいいですか。また必要性に応じて、視察の場所であるとかテーマというのを設定していくという、こういう確認でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

委員会で決めなければならないことは以上になりますので、ちょっと1回、休憩を取らせてもらいます。また追って何時再開ということをお伝えさせていただきますので、ちょっとご休憩をいただきたいと思います。

14:27 休憩

15:00 再開

○ 森川 慎委員長

長らくお待たせをしました。再開させていただきます。

休憩前に豊田委員から、公立幼稚園の園児募集を延ばすことができるのかどうかという
ような問いかけを行政のほうに投げてください、調べていただきましたので、まずは期
日なりとか、調べてもらった結論とかをご説明いただきたいと思います。

○ 大西保育幼稚園課長

保育幼稚園課の大西でございます。お時間を頂戴しまして、誠に申し訳ございませんで
した。

委員長からもご発言いただいたように、豊田委員のほうから、幼稚園児の募集を延ばせ
ないかといったところでご質問をいただいております。それで、公立幼稚園の園児の申請
等につきまして、通年9月で申請を受け付けておりますが、申請書の提出時におきまして
は申請書の内容の確認、こちらを保護者様と申請書の内容を確認しております。これが、
今年度は9月7日から9月30日までの予定でございます。その次の工程を申しますと、例
年11月中旬にお子さんの様子を確認すべく、保護者の方とお子さんが園で1日入園体験を
行います。それとは別途なんですけれども、申請時におきまして、少し支援を要すると思
われるお子さんにつきまして、保護者の方の同意の下、園にてお子さんの集団の中での
様子を見させていただいておるところがございまして、例年、この集団での体験を11月中
に終えておるところでございますので、園児募集につきましては、現在9月末ですけれど
も、10月末までの1か月であるならば工程的に延ばすことは可能と考えております。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

ご説明をいただきました。

園児募集は、例年は9月の段階でしているところなんですけれども、一月延ばすことに関し

ては、その後の様々な手続的なところを変えることなく延ばすことが可能であるということとでいいですね。そういうご説明がありました。

これからご質疑がまたあるかと思いますが、ちょっと委員長としまして、公立幼稚園の入園云々というところについて、すぐに答えられないということは大きな問題だと思っていますので、ちょっと改めて、公立幼稚園のことを本当に考えているのかなと言われてもしようがないことかなと私は感じましたので、以後、このようなことがないようにだけ留意をしていただきたいなということを申し添えておきたいと思います。

ここから、ただいまの件についてご質疑を承りたいと思いますが、豊田委員からですかね。

○ 豊田政典委員

今、委員長が言われた話の確認ですけど、今理事者は7人出席いただいています、誰も実態を知らないのでは各園に問合せをしていたというのは事実ですか。

○ 大西保育幼稚園課長

当課に指導教諭がいますので、そちらに確認した次第でございます。

以上です。

○ 豊田政典委員

その方しか知らなかったということですか。

○ 大西保育幼稚園課長

その当課の指導教諭に確認を取った次第です。

○ 豊田政典委員

そんなこと聞いていない。

○ 森川 慎委員長

それは今の副参事のお話ですか。その方しか知らなかったのかどうか、その他の保育幼稚園課の方、ほかの方は誰も知らなかったのかという問いだと思いますので、端的に願

いします。

○ 大西保育幼稚園課長

休憩前にお答えさせてもらったところは事実でございます、その事実確認等について、先ほどお時間をいただいた折に、当課の指導教諭に確認した次第でございます。

以上です。

○ 森川 慎委員長

ちょっと答えていないな。公立幼稚園に入園する際の手続なりスケジュールというものを、今ご出席の山本副参事以外に、保育幼稚園課内の方でご存じの方はいなかったのかどうかという問合せだと思います。

○ 大西保育幼稚園課長

休憩前の時点でお答えすることができなかったのは事実でございますので、大変申し訳ございませんでした。

○ 豊田政典委員

答えていない。

○ 森川 慎委員長

ですから、今現状の中で、職員の中で知っている方は見えなかったということですかね。お一人を除いては。

○ 大西保育幼稚園課長

度々の回答になるんですけれども、事実としまして、今、確認作業はやはり当課の指導主事にさせてもらったといったところでございます。

○ 豊田政典委員

答えていない。

○ 森川 慎委員長

ほかの方が知っていたか、知っていなかったかは別として、今ここに出席されている方においては、山本副参事以外の方で知っているかどうかということまでは分かっていなかったということでもいいですか。

○ 大西保育幼稚園課長

申し訳ございませんでした。現に手続上、幼稚園の園児募集となると、要は募集の枠内であったといったところで、詳細につきましては、今ご質問いただいた内容について、このところまでお答えはできなかったということでございます。

○ 豊田政典委員

答えていない。知っていたか、知っていなかったかを聞いている。

○ 森川 慎委員長

把握している人がいるのかどうかすらも分かっていなかったということは事実ですか。そういう事実があるかどうかは別にして、今ご出席の方で、幼稚園に入る際の手続なりスケジュールというものの把握について、中には山本さん以外に知っている方はみえたかもしれないですけども。

○ 豊田政典委員

かもしれないとは。

○ 森川 慎委員長

そこまでの確認ができていない、認識できていなかったということでもいいですか。

○ 大西保育幼稚園課長

実際に確認作業を要したということで、即答はできなかったといったところでございます。

以上です。

○ 豊田政典委員

即答できるだけの知識というか、実態把握ができていなかったのですかと聞いているの。

○ 大西保育幼稚園課長

即答できるまでの実態把握は、すみません、できていませんでした。

○ 豊田政典委員

そうなると、中村係長が答えた2月に面接だとか云々というのは間違いはないんですか。

○ 大西保育幼稚園課長

2月上旬に入所の決定を行うといったスケジュールにつきましては、申し上げたとおりでございます。

○ 豊田政典委員

休憩前の答弁は全て間違いはないということ、全て。

○ 大西保育幼稚園課長

休憩前の答弁につきまして、まず冒頭に、私のほうが保育園と幼稚園、これ、同時期でないと保護者の希望云々といったくだりにつきましては、これは私の個人的な見解が含まれていましたので、休憩明けに申し上げたスケジュールが事実であるにご理解願いたいと思います。どうもすみませんでした。

○ 豊田政典委員

ほかは。面接云々というのは。

○ 大西保育幼稚園課長

休憩明けに申し上げたとおり保育園の入所面接については随時申請をいただいて、11月頭から面接を行っております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

お聞きのとおりで、保育園のことを答えていた部分もあるし、大西課長の個人的見解を述べた部分もある。それから、実態を把握できていないということが保育幼稚園課の実態だということはよく分かった。

質問ですけど、何年か前までは10月募集だったんですよね、公立幼稚園も。それが保育園に合わせるという理由だけで9月になったというのは私も知っている。お聞きするのは、2か月ずらせばうまくいくわけですか、議会も。それは可能か不可能か。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

今申し上げたところで、10月末までといったあたりで、2か月は不可能と考えております。

以上です。

○ 豊田政典委員

理由を教えてください。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

今、休憩明けに申し上げた工程の中で、支援を要するお子さんについて、保護者の方々の同意の下、集団のお子さんの中でのお子さんの様子を拝見させていただくと、その中で、そのお子さんの介助の度合い、あるいは支援の度合いを拝見させていただくといった作業をやはり11月末までに終えておきたい。そして、お子さんの様子を確認した上で、クラス、人員体制等の編成を考慮しますと、先ほど申し上げた作業を11月までに終えたいと考えております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

終えたいというところがよく分からないんですけど、1年間だけ特例として、11月の分を12月にするのは頑張っても無理ですか。どうして無理ですか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

その辺りにつきまして、今、すみません、ちょっと長々とお時間をいただいたところでございまして、この辺りが何か月延ばせるのかといったところで、お時間をいただいた中で話し合った結論としては、今申し上げた1か月といったところです。

以上です。

○ 豊田政典委員

理由を教えてください。

○ 大西保育幼稚園課長

理由としましては、先ほど申し上げさせていただいた次第でございます。

○ 豊田政典委員

1か月延ばすとどういうことになるの。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

先ほど申し上げましたように、お子さんの様子を見させていただいた中で、その様子に基づきまして、お子さんの介助の度合い、あるいは支援の度合い、これを考えていくところでございます。その考える期間、そして、そのお子さんを含めたクラス編成、そして、クラス編成を基にした職員体制を考慮していきますと、やはり1か月は延ばせないと判断します。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

これ以上は、僕は分かりませんが、ただ感想的に言うならば、1か月もない中で新基準を適用しようとしていた保育幼稚園課ですよ。5月1日だとか言っていたやつありますやんか、4月になっても決めていなかったのが。5月1日にやろうとしていた課としては、

あまりにも時間がかかり過ぎじゃないかという感想は持っておりますので、私の中に記憶しておきます。

○ 森川 慎委員長

この件についてどうでしょうか。聞いておきたいことはないですか。
いいですか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

分かりました。ありがとうございます。

では、園児募集自体を一月延ばして、その間で、ちょっとまたタイトにはなってくるんですけど、この教育民生常任委員会並びに全員協議会で方向づけをして、次年度の園児募集に反映させていくという手が一つ取り得るかなと思います。

ただ、先ほど休憩中というか、こども未来部の皆さんが外していただいている間に、議論の回数なりを確認させていただきましたけれども、その中で、7月中に3回の日程を取っていただいて、回数が少ない中で結論を出せるかどうかというところは出てくるとは思うんですが、行政も一月先送りしても大丈夫だということでは折れてくれたのかなということを委員長としては認識をします。当然ながら、議会も議論をしていって、なるべく早い結論を出さなければならない。このことは事実としてあって、どうでしょう、園児募集を一月延ばして、その間に委員会で、もう一回とか、この7月中に増えるかもしれませんが、そういう過程で結論を出して、8月4日というのは議員説明会があるんですね。ですので、ここで多分また全員協議会の設定を議長から申し入れていただくこともできるのかなということを思いました。

当然ながら、そんなのはもう肅々と、それまでに示された方式でやっていくべきだと、こういう意見もあると思いますので、私としては、園児募集を一月先送りしていただいたことの期間で議会として結論を出して、それが反映されるような形で次年度の園児募集をしてもらおうというようなことが、双方で一番折り合って合意できるところかなというふうに委員長として提案をさせていただきますけれども、ここで反論なりがあって合意が得られない場合は、先ほどおっしゃっていただいたように、このような意見が出たということ

で、議長には私から謝らせていただいて、よう結論は出せませんということで全員協議会に差し戻すと、そういう方法かなと、この二つかなと思うんですけども、ご意見を賜りたいと思います。どうでしょう。

○ 豊田政典委員

大反対です。先ほど決めたことが1か月でできるとは思えないし、議長に謝る必要は全くない。

○ 森川 慎委員長

一応私は、教育民生常任委員会として合意点を見つけるということ、約束まではしませんけれども、そういう思いで委員会を進めていきたいというお話を議長には直接させていただいていますので、そういう意味での謝罪という意味です。私自身の力不足だったというところの反省であります。

○ 豊田政典委員

期限を切って約束したんですか。

○ 森川 慎委員長

最初に思っていたというか、議長とお話をさせていただいた上で思っていたのは、8月、9月の間に議会全体としての結論を出して、それをもって、広報には間に合わないですけども、次年度の募集の段階ではどういうことになるよというような説明ができればいいんじゃないかというふうには思っていました。だけど、このこと自体は、先ほど確認させていただいたように、再来年まで園児募集は延ばしてしまうというようなお答えでしたので、現実的には難しいというか無理だろうということは、私は思いましたもので、その中で、それぞれの委員さんの意見もありますし、合意を得られるところは今言ったようなところなのかなと判断をしたところですよ。

○ 豊田政典委員

だから、その話の中でどこに非があるんですか。委員長が謝ということは委員会全体が謝ることなので。

○ 森川 慎委員長

分かりました。じゃ、謝罪はしません。

○ 村山繁生委員

今の、せっかく委員長がまとめてもらおうとしておったけど、私は延ばすこと自体が反対です。余計保護者の不安をあおるというか、混乱してしまうと思います。これは、やっぱり同じ条件の中で選択肢を与えるべきだというふうに思いますので、これはもうきちっと、それまでに結論をきちっと出して、延ばすべきではないと。議論が足らん足らんと豊田さんは言われるけど、教育民生常任委員会は全然話をしていないって言われるけど、それは言い過ぎですよ、やっぱり。ちゃんとしていますもん、教育民生常任委員会の中で。それも受け継いでこの会議で、今日だけでも相当議論したじゃないですか。これから1か月延びたからといって私の考えは変わるわけないし、これはもうきちっとやっていただきたいというのが私の意見です。

○ 森川 慎委員長

承りました。

豊田委員、何かありますか。いいですか。

他にどうでしょう。

○ 土井数馬委員

委員長の提案で結構です。

○ 森川 慎委員長

というのは、一月延ばして、その間に結論を得るということですね。

ほかにどうでしょう。

○ 笹岡秀太郎委員

土井さんと同じくです。

○ 中川雅晶委員

1 か月延ばして結論が得られるかというのと、なかなかそれも難しいのかなと思うと、じっくり中身を議論しようと思えば、単に1 か月先に延ばしても今と同じような結論だったら意味がないのかなと思うので、当初の方向でやられたほうがいいのではないかなと個人的には思います。

○ 森川 慎委員長

日置委員、どうでしょう。

○ 日置記平委員

1 か月延ばして、しっかりと議論しなきゃいけない。

○ 森川 慎委員長

副委員長もどうですか。

○ 小田あけみ副委員長

こども未来部の皆さんも大変努力していただいたので、1 か月延ばすというほうに賛成します。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

ご意見は出尽くして、合意には残念ながら至りませんでしたので、そういうことで、私の提案も含めて、こういうことでしたということで全員協議会へ戻したいと思いますが、それでよろしいですか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

では、そのように整理させていただいて、委員長報告として上げさせていただきますので、また全員協議会でのご議論をよろしくお願いします。

○ 村山繁生委員

全員協議会に戻すのはそれも分かりますし、理解していますし、それも当然のことやと思います。その上で、そのときに、このまま予定どおり園児募集をする、広報に載せるのか、あるいは一月延ばした上でするのかということをはっきり決めてもらうということですね。

○ 森川 慎委員長

そうです。そのことのみです。第2次適正化計画の中身自体では、先ほど確認いただいた予定で進めていくということになるのかなと思います。何があるかは、ちょっと保証はできませんけれども。

○ 村山繁生委員

全員協議会で決めるということですね。

○ 森川 慎委員長

はい。

よろしいですか、そういう整理で。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

では、そのように取り計らってまいりますので、この項は終わりたいと思います。

何か確認しておくことはありましたか。

当然、全員協議会の結論を受けてのことにはなるんですが、先ほど、こども未来部の皆さんが退席されている間に、どういう議論をしていこうかというところをこの委員会で諮らせてもらいまして、第1回目が所管事務調査で7月7日、これ、また日程を後で渡してもらって。1回目が7月7日木曜日の午後1時30分から行わせていただきます。

内容については、まずは第2次適正化計画の中身について、それぞれの委員さんから確認したいことであるとか、議論したいことであるとか、そういう問題点なりをそれぞれ抽

出して提出してもらって、議論の方向性なりというのを考えていくと。あわせて、これまでのこども園、四日市市でも三つ、四つしていただいていますけれども、その総括的なご報告を行政側からいただいて、そのことでこども園自体どうやと、このままでいいのかどうかとか、そういう議論をしていきたいということを決定させていただきましたので、そのような趣旨のところでご答弁できるような準備なり、資料準備なりというのをお願いしたいと思います。また後で、後ほど調整はさせていただきますけれども、そういう方向性になっていますので、よろしくお願いします。

これで全て終わりましたので、終了させていただきたいと思いますが、委員長報告については正副委員長にご一任をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

では、そのように取り計らってまいります。

長い時間にわたって闊達な議論をいただきまして、ありがとうございました。なかなか委員長の不手際が多くて申し訳ありませんでしたけれども、また引き続き、今年1年よろしくお願ひしたいと思います。

これにて教育民生常任委員会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

15：25 閉議